

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

<施工の前に>

保証書とユーザーカードを必ず施主様にお渡しください。

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。

**ポイント**

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

<施工上のご注意>

**注意**

- 製品の強度低下、またはケガの原因になりますので、ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
 〈推奨トルク〉 $\phi 4$ ネジ：1.8N・m $\pm$ 0.5N・m（18kgf・cm $\pm$ 5kgf・cm）
 M5ボルト：3.0N・m $\pm$ 0.5N・m（30kgf・cm $\pm$ 5kgf・cm）
 M6ボルト：8.0N・m $\pm$ 0.5N・m（80kgf・cm $\pm$ 5kgf・cm）
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。

<施工上のご注意>

ポイント

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。
免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の順序通り組付けてください。製品の強度等、性能を低下させる場合があります。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 施工終了後は扉の開閉チェックを行い、不具合がないか確認してください。

<電気配線工事について>

注意

- AC100V電線の埋設工事、配線作業に関しては電気工事店の有資格者に依頼してください。
- 電動用電線ケーブルは必ず、過電流保護付漏電ブレーカーに接続してください。
- 電動支柱（支柱）には必ずアース（D種接地工事）をとってください。

ポイント

- 施工には、別途過電流保護付漏電ブレーカーおよび埋設用PF管（呼び径14）、電源ケーブル、アース棒が必要となりますので、用意してください。

<基礎工事について>

注意

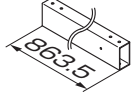
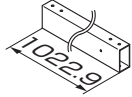
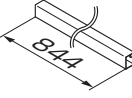
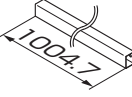
- 基礎施工寸法の柱埋込み位置は、性能や耐久性、安全上重要ですので必ずお守りください。
- 塩分を含む砂および塩素系のモルタル混和剤は使用しないでください。腐食の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。

ポイント

- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決まっていますが、現場によっては（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分考慮してください。
- コンクリート（またはモルタル）には、急結剤を使用しないでください。使用すると腐食の原因になります。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。

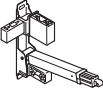
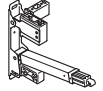
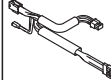
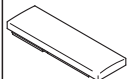
■梱包明細表

【1】柱セット

名 称	略 図	員 数					
		オーバードア		ワイドオーバードア (1モータ)		ワイドオーバードア (2モータ)	
		標準	ハイルーフ	標準	ハイルーフ	標準	ハイルーフ
電動支柱 (主柱) ・標準用		1	—	1	—	1	—
電動支柱 (主柱) ・ハイルーフ用		—	1	—	1	—	1
電動支柱 (サブ柱) ・標準用		—	—	—	—	1	—
電動支柱 (サブ柱) ・ハイルーフ用		—	—	—	—	—	1
電動支柱配線カバー		1	1	1	1	1	1
手動支柱 (サブ柱) ・標準用		1	—	1	—	—	—
手動支柱 (サブ柱) ・ハイルーフ用		—	1	—	1	—	—
上アーム ・標準用		2	—	2	—	2	—
上アーム ・ハイルーフ用		—	2	—	2	—	2
下アーム ・標準用		2	—	2	—	2	—
下アーム ・ハイルーフ用		—	2	—	2	—	2
渡り配線 (呼び径14埋設管付き)		—	—	—	—	1	1
取扱説明書 (ユーザーカード付き) <UD112>	—	1	1	1	1	1	1

■梱包明細表(つづき)

【2】 部品セット

名 称	略 図	員 数		
		オーバードア	ワイド オーバードア (1モータ)	ワイド オーバードア (2モータ)
アーム取付金具 カバー (左)		1	1	1
アーム取付金具 カバー (右)		1	1	1
扉取付金具 (左)		1	1	1
扉取付金具 (右)		1	1	1
リモコン送信器 (小箱入)		1	2	2
ゲート用通信ユニット		1	1	1
機器接続配線		1	1	1
電動支柱キャップ		1	1	2
手動支柱キャップ		1	1	—
手動支柱スペーサー		1	1	—
アームカバー		2	2	2
連結棒固定バンド (※1)		—	1	1
補助スプリング 取付金具		2	2	2
補助スプリングユニット 取付ピン		2	2	2
【1-1】 M5六角袋ナット		2	2	2
【1-2】 M5平座金		2	2	2
【1-3】 M6×16十字穴付き 六角ボルト (PW+SW)		32	32	32

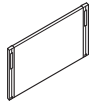
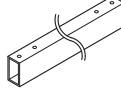
※1：黒色のみになります。ワイドオーバードア W39以上の
場合に使用します。

【2】 部品セット(つづき)

名 称	略 図	員 数		
		オーバードア	ワイド オーバードア (1モータ)	ワイド オーバードア (2モータ)
【1-4】 φ4×12トラス タッピンネジ3種 (D=8)		10(※1)	10(※1)	10(※2)
【1-5】 φ4×8ナベ タッピンネジ2種		8	8	8
【1-6】 φ4×10 特サラタッピンネジ		4	4	4
取付説明書<D515>	—	1	1	1
ゲート用通信ユニット 設定ガイド<Z606>	—	1	1	1

※1 予備で1本余ります。 ※2 予備で2本余ります。

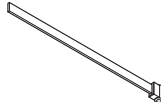
【3】 扉本体セット

名 称	略 図	員数
扉本体 (※2)		1
アーム連結棒		1

※2：扉本体には、扉取付金具裏板、扉取付ボルト (M8×15
六角ボルト)、接地ストッパーは仮組付けしています。

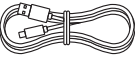
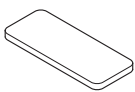
【4】 ロング接地ストッパーセット

オプション

名 称	略 図	員数
ロング接地ストッパー		1

【5】 ゲート用通信ユニット

オプション

名 称	略 図	員 数	
		1台用	2台用
ゲート用通信ユニット		1	1
車載リモコン		1	2
USBケーブル		1	2
車載リモコン用クッション		2	4
フェライトコア		1	1
ゲート用通信ユニット 設定ガイド<Z606>	—	1	1
車載リモコン 設定ガイド<Z607>	—	1	1

1. 各部の名称

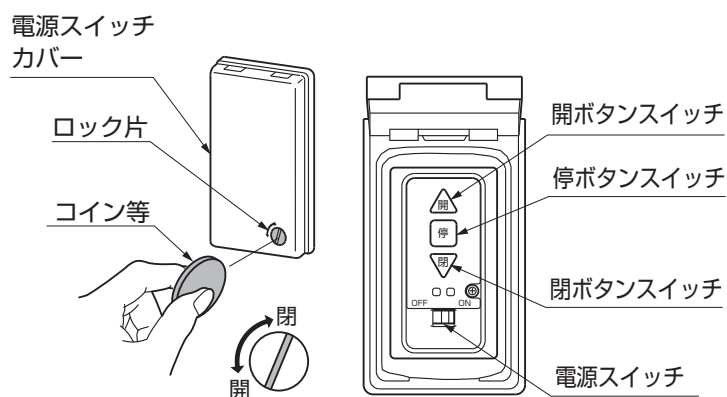
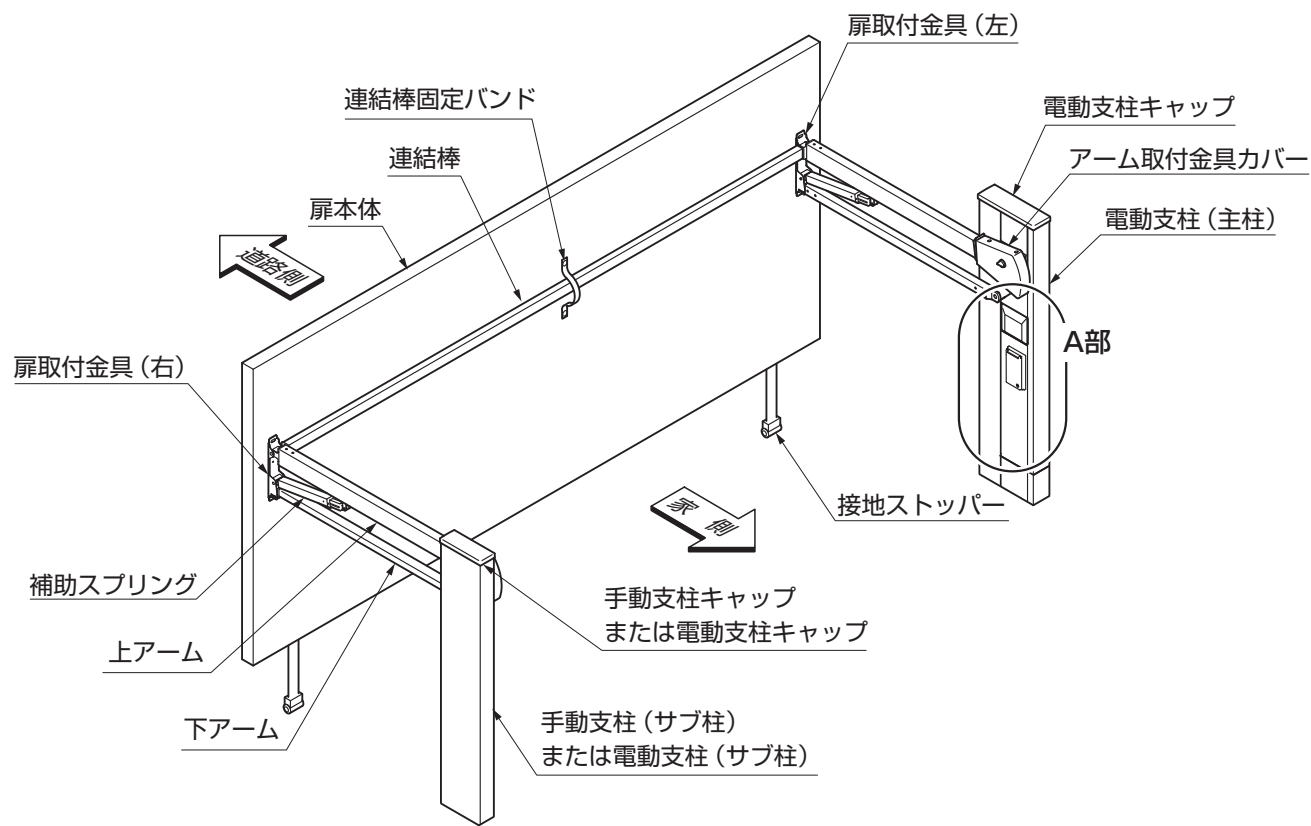


図1-2 施工・非常用押ボタンスイッチ

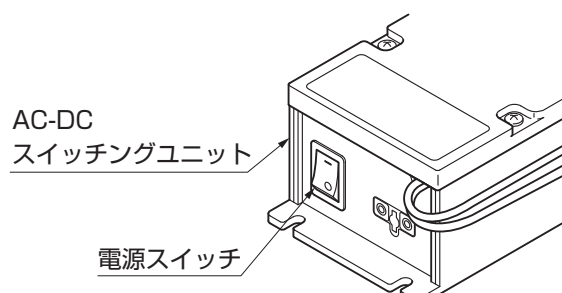


図1-3 電源スイッチ 詳細図

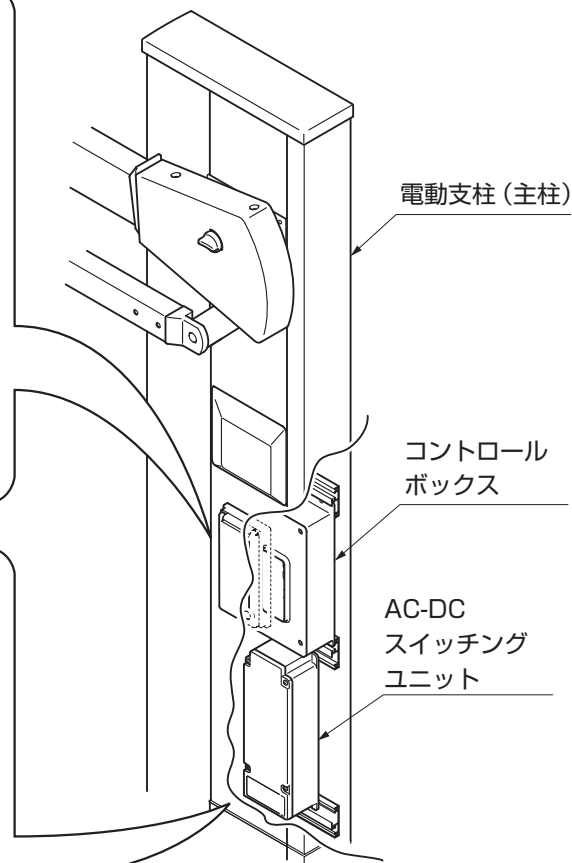


図1-1 A部詳細図

2. 基本寸法

2-1 オーバードアS (W27・30型)

(1) 共通寸法表

表2-1 基本寸法

サイズ	扉本体幅 W	柱外々寸法 W+22	有効開口幅 W-232
W27型	2650	2672	2418
W30型	2950	2972	2718

表2-2 必要寸法

サイズ	L	扉はみ出し 寸法A		接地ストッパー はみ出し寸法B		必要高さC					
						H10型		H12型		H14型	
		標準値	最大値	標準値	最大値	標準値	最大値	標準値	最大値	標準値	最大値
W27型 標準	1113	9	25	68	87	2041	2077	2124	2124	2207	2215
W30型 ハイルフ	1263	68	104	121	141	2330	2366	2341	2366	2419	2426

ポイント

- 扉のはみ出し寸法と必要高さ寸法は、扉の垂直調整や施工精度などにより大きく変わります。扉の軌跡上に障害物がないことを確認してください。障害物にあたると扉の破損や故障の原因になります。
- 接地ストッパーは枠（下枠）より90mm伸ばした状態です。接地ストッパーを調整し90mm以上に伸ばした場合、B寸法は大きくなります。最大250mmまで調整可能ですが、その場合、B寸法に+145mm加算してください。
- 柱と壁のすき間は、必ず電動支柱で33mm以上、手動支柱は41mm以上空けてください。すき間がないとメンテナンスができなくなります。

(2) 平面図・正面図

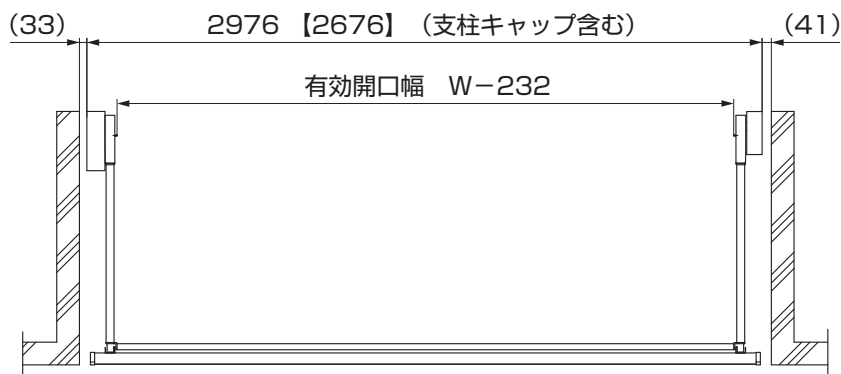


図2-1 平面図

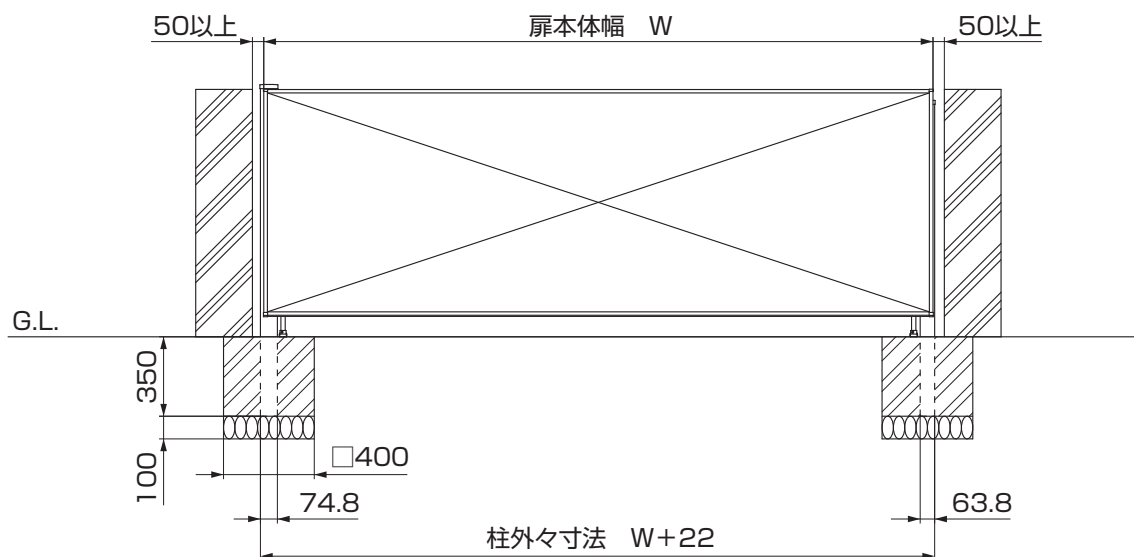


図2-2 正面図

(3) 側面図

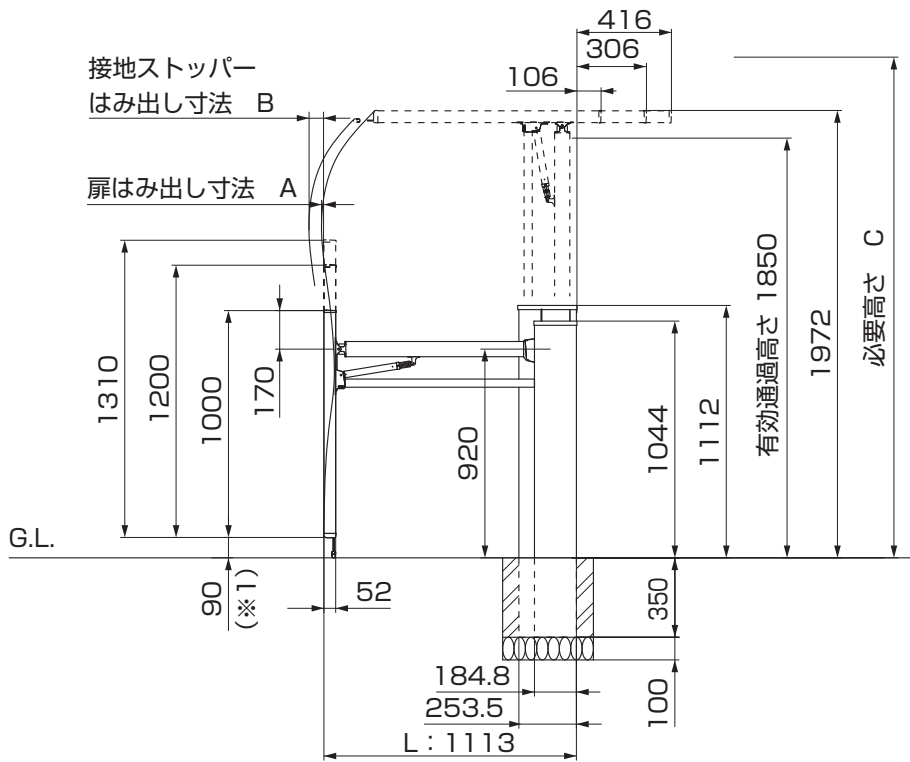


図2-3 側面図（標準の場合）

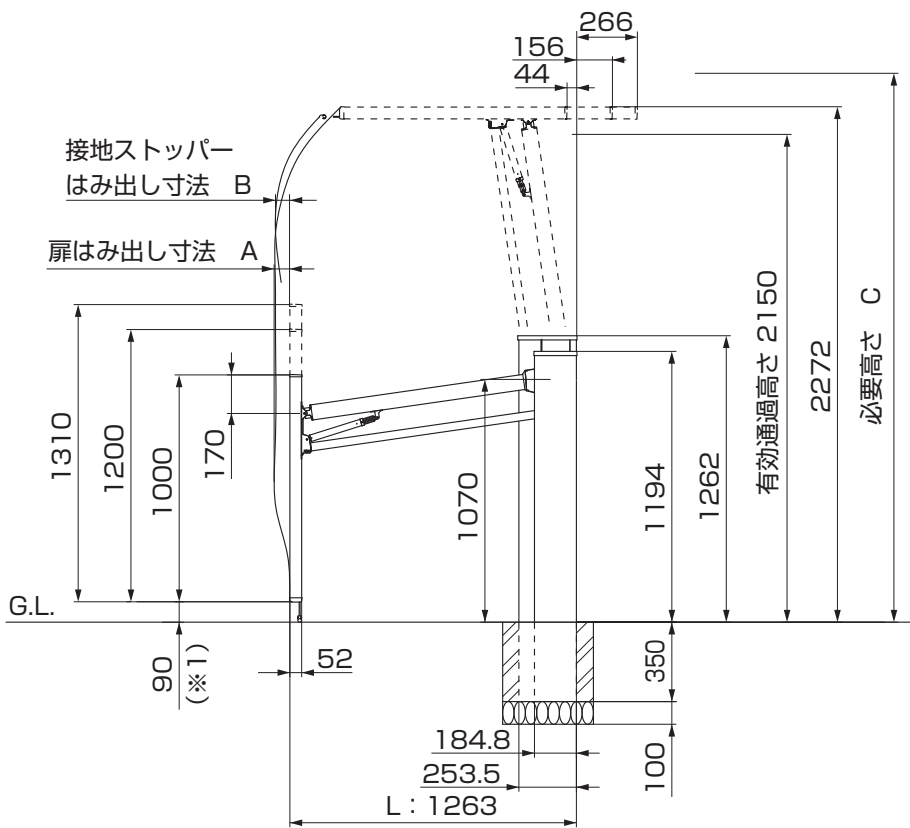


図2-4 側面図（ハイルーフの場合）

ポイント

- 扉の下空き寸法はG.L.が水平の場合90mmになりますが、水勾配などで90mmより大きくなります。（※1）

2. (つづき)

2-2 ワイドオーバードアS (W33~54型) 1モータ

(1) 共通寸法表

表2-3 基本寸法

サイズ	扉本体幅 W	柱外々寸法 W+22	有効開口幅 W-232
W33型	3250	3272	3018
W36型	3550	3572	3318
W39型	3850	3872	3618
W42型	4150	4172	3918
W45型	4450	4472	4218
W48型	4750	4772	4518
W51型	5050	5072	4818
W54型	5350	5372	5118

表2-4 必要寸法

サイズ		L	扉はみ出し寸法A		接地ストッパーはみ出し寸法B		必要高さC			
							H10型		H12型	
			標準値	最大値	標準値	最大値	標準値	最大値	標準値	最大値
W33型	標 準	1113	9	25	68	87	2041	2077	2124	2124
W36型	ハイルーフ	1263	68	104	121	141	2330	2366	2341	2366
W39～	標 準	1124	5	36	57	76	2052	2088	2132	2132
54型	ハイルーフ	1274	66	101	109	130	2341	2377	2350	2377

ポイント

- 扉のはみ出し寸法と必要高さ寸法は、扉の垂直調整や施工精度などにより大きく変わります。扉の軌跡上に障害物がないことを確認してください。障害物にあたることで扉の破損や故障の原因になります。
- 接地ストッパーは框（下枠）より90mm伸ばした状態です。接地ストッパーを調整し90mm以上に伸ばした場合、B寸法は大きくなります。最大250mmまで調整可能ですが、その場合、B寸法に+145mm加算してください。
- 柱と壁のすき間は、必ず電動支柱で33mm以上、手動支柱は41mm以上空けてください。すき間がないとメンテナンスができなくなります。

(2) 平面図・正面図

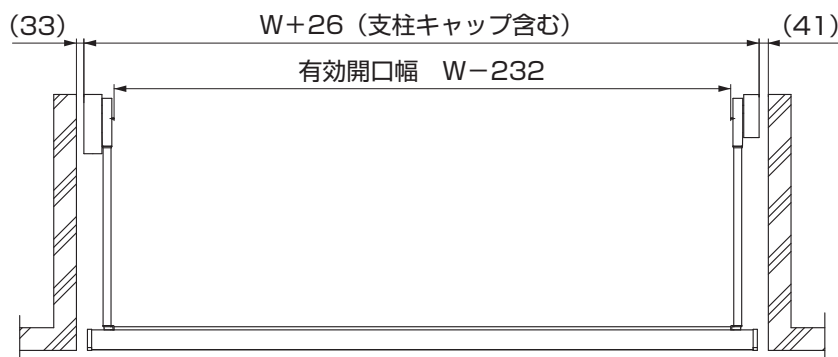


図2-5 平面図

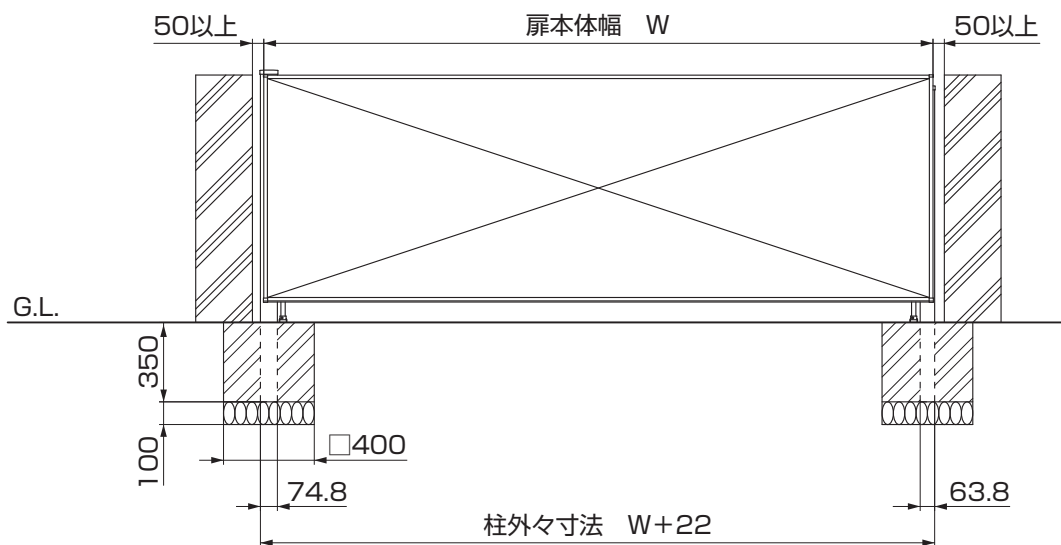


図2-6 正面図

(3) 側面図

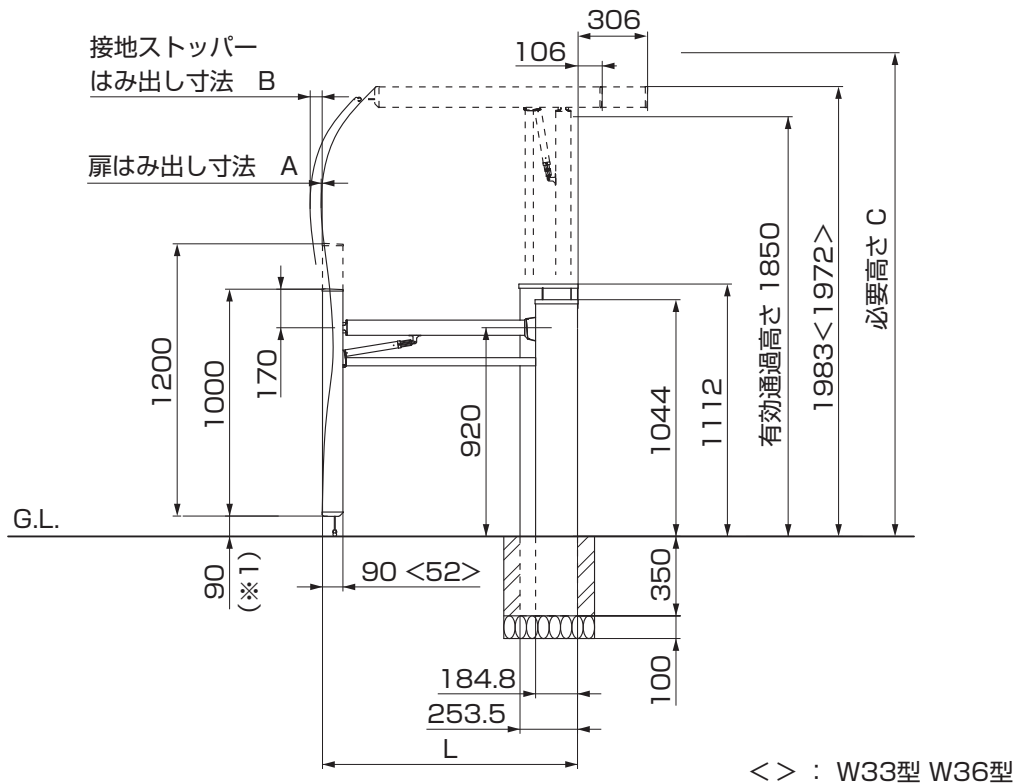


図2-7 側面図（標準の場合）

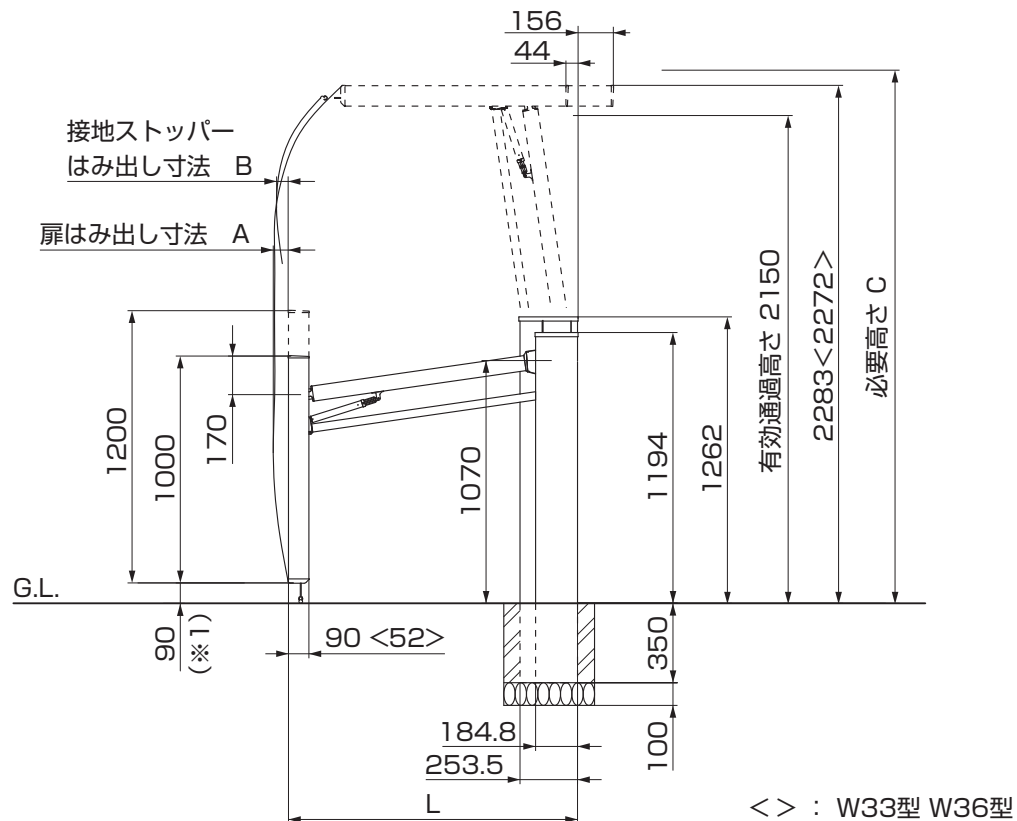


図2-8 側面図（ハイルーフの場合）

ポイント

- 扉の下空き寸法はG.L.が水平の場合90mmになりますが、水勾配などで90mmより大きくなります。（※1）

2. (つづき)

2-3 ワイドオーバードアS (W33~60型) 2モータ

(1) 共通寸法表

表2-5 基本寸法

サイズ	扉本体 幅 W	柱外々 寸法 W+30	有効 開口幅 W-232
W33型	3250	3280	3018
W36型	3550	3580	3318
W39型	3850	3880	3618
W42型	4150	4180	3918
W45型	4450	4480	4218
W48型	4750	4780	4518
W51型	5050	5080	4818
W54型	5350	5380	5118
W57型	5650	5680	5418
W60型	5950	5980	5718

表2-6 必要寸法

サイズ	L	扉はみ出し 寸法A		接地ストッパー はみ出し寸法B		必要高さC			
						H10型		H12型	
		標準値	最大値	標準値	最大値	標準値	最大値	標準値	最大値
W33型	標準	1113	9	25	68	87	2041	2077	2124
W36型	ハイルーフ	1263	68	104	121	141	2330	2366	2341
W39~	標準	1124	5	36	57	76	2052	2088	2132
60型	ハイルーフ	1274	66	101	109	130	2341	2377	2350

ポイント

- 扉のはみ出し寸法と必要高さ寸法は、扉の垂直調整や施工精度などにより大きく変わります。扉の軌跡上に障害物がないことを確認してください。障害物にあたると扉の破損や故障の原因になります。
- 接地ストッパーは框（下枠）より90mm伸ばした状態です。接地ストッパーを調整し90mm以上に伸ばした場合、B寸法は大きくなります。最大250mmまで調整可能ですが、その場合、B寸法に+145mm加算してください。
- 柱と壁のすき間は、必ず33mm以上空けてください。
すき間がないとメンテナンスができなくなります。

(2) 平面図・正面図

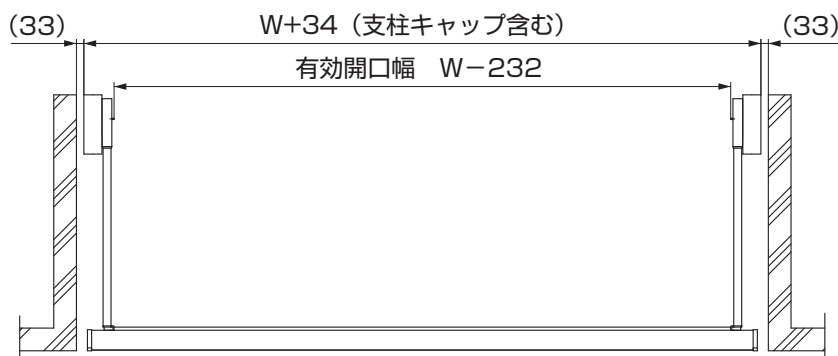


図2-9 平面図

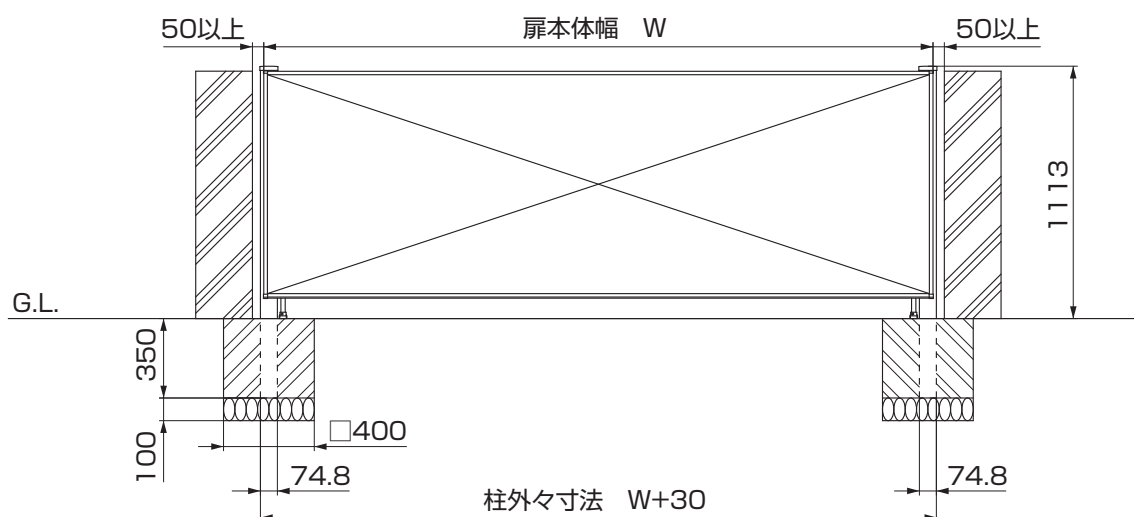


図2-10 正面図

(3) 側面図

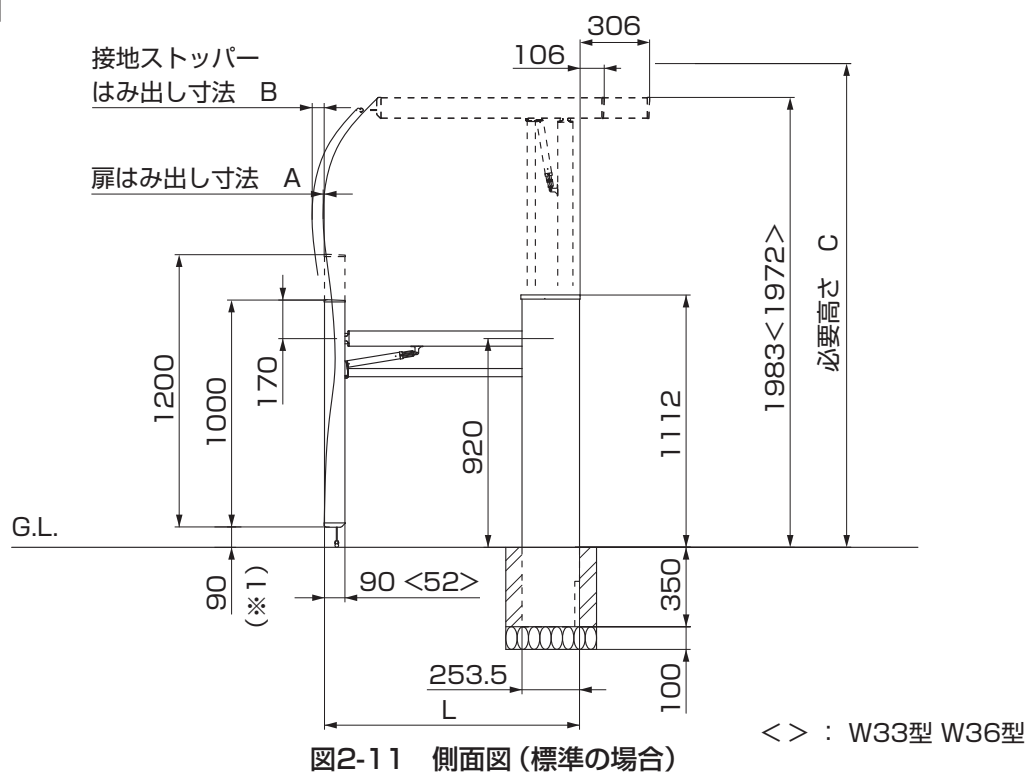


図2-11 側面図（標準の場合）

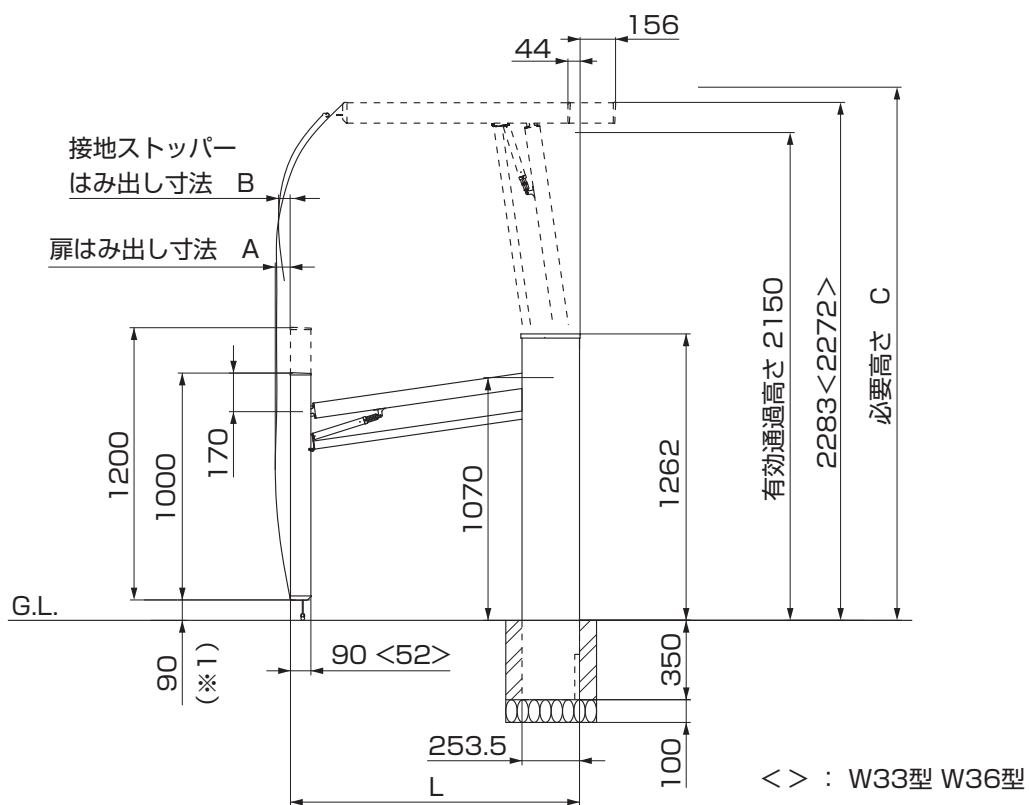


図2-12 側面図（ハイルーフの場合）

ポイント

- 扉の下空き寸法はG.L.が水平の場合90mmになりますが、水勾配などで90mmより大きくなります。（※1）

2. (つづき)

2-4 カーポートとの組み合わせ（カーポートの桁下に設置する場合）

(1) 標準の場合

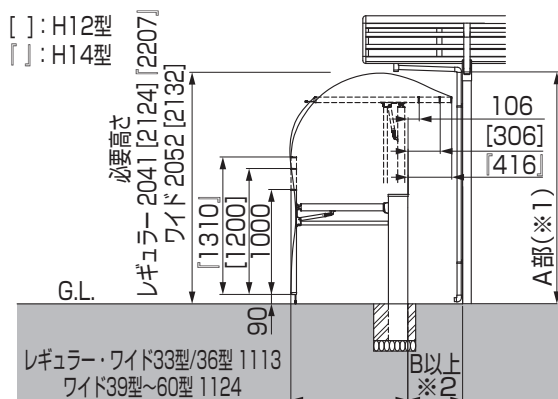
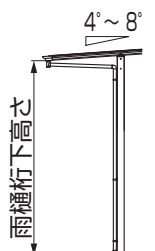


図2-13 側面図（標準の場合）

●各仕様の雨樋桁下高さ



奥行	アーキデュオ 3台用		アーキデュオ プレミアム 3台用	
	50型	57型	50型	57型
屋根 傾斜	4°	2370	2356	2321
	5°	2301	2278	2253
	6°	2231	2200	2185
	7°	2162	2122	2116
	8°	2093	2044	2048

- ※1：A部はGL～エルボ下の寸法です。（ドレンエルボではありません。）
 ※2：B部はオーバーボード柱～カーポート柱の寸法です。
 ※3：Gルーフ カールフタイプはH24柱を表中の標準柱に、H29柱を表中のロング柱に置き換えてご覧ください。Gルーフ カールフタイプはルーフ用中間柱90×140を選択した場合の寸法です。
 ※4：ソルディーポート・ウィンスリーポートⅡ・テリオスポートⅢはロング柱30を表中のH28柱に置き換えてご覧ください。

表2-7 オーバードア・カーポートの組み合わせ可否表（オーバードアを桁下に施工できるカーポート）

標準タイプ カーポート仕様 オーバードア仕様	H10 オーバードアS				H12 オーバードアS				H14 オーバードアS			
	標準柱	ロング柱	H28柱	B寸法	標準柱	ロング柱	H28柱	B寸法	標準柱	ロング柱	H28柱	B寸法
	標準	標準	標準		標準	標準	標準		標準	標準	標準	
カーポートSC 1台用 (1500含)	○	○	○	210	○	○	○	410	×	○	○	520
カーポートSC 2台用 (1500含)	○	○	○	210	○	○	○	410	×	○	○	520
アーキフィールド	×	○	○	310	×	○	○	510	×	×	○	620
Gルーフ カールフタイプ	○※3	○※3	-	260	○※3	○※3	-	460	○※3	○※3	-	570
アーキフラン 1台用	○	○	-	L50:2380	○	○	-	L50:2380	○	○	-	L50:2380
アーキフラン 2台用	○	○	-	L58:2930	○	○	-	L58:2930	○	○	-	L58:2930
ソルディーポート 1台用	○	○	○※4	290	×	○	○※4	490	×	○	○※4	600
ソルディーポート 2台用	○	○	○※4	290	×	○	○※4	490	×	○	○※4	600
ウィンスリーポートⅡ・テリオスポートⅢ 4本柱	×	○	○※4	290	×	○	○※4	490	×	○	○※4	600
ウィンスリーポートⅡ・テリオスポートⅢ 6・8本柱	○	○	○※4	290	○	○	○※4	490	×	○	○※4	600
アーキデュオ 3台用	○	○	○	260	○	○	○	460	○	○	○	570
アーキデュオ プレミアム 3台用	○	○	○	260	○	○	○	460	○	○	○	570
フーゴ R 1台用 (900含)	○	○	○	260	○	○	○	460	×	○	○	570
フーゴ R 2台用 (900含)	○	○	○	260	○	○	○	460	○	○	○	570
フーゴ F 1台用 (900含)	○	○	○	260	○	○	○	460	○	○	○	570
フーゴ F 2台用	×	○	○	290	×	○	○	490	×	×	○	600
フーゴ A 1台用 (プラス含)	○	○	○	260	×	○	○	460	×	○	○	570
フーゴ A 2台用 (プラス含)	○	○	○	260	○	○	○	460	○	○	○	570
ネスカ R 1台用	○	○	○	260	○	○	○	460	×	○	○	570
ネスカ R 2台用	○	○	○	260	○	○	○	460	○	○	○	570
ネスカ F 1台用	○	○	○	260	○	○	○	460	×	○	○	570
ネスカ F 2台用	×	○	○	290	×	○	○	490	×	○	○	600
ファインポートⅡZ 1台用	×	○	-	270	×	○	-	470	×	○	-	580
ファインポートⅡZ 2台用	×	○	-	270	×	○	-	470	×	○	-	580
レガーナポートシグマⅢ	×	○	-	260	×	○	-	460	×	○	-	570
カルエードシグマⅢ	×	○	○	260	×	○	○	460	×	○	○	570
リベルポートシグマⅢ	×	○	○	260	×	○	○	460	×	○	○	570
テールポートシグマⅢ 1台用 (1500含)	×	×	○	260	×	×	○	460	×	×	○	570
テールポートシグマⅢ 2台用 (1500含)	×	×	○	260	×	×	○	460	×	×	○	570

1) ○印は組み合わせ可能です。(○=オーバードア必要高さ<カーポートA部寸法) 2) アーキデュオ3台用およびアーキデュオプレミアム3台用は屋根傾斜により組み合わせ不可となる場合がありますので、雨樋桁下高さの表を参照してください。

ポイント

- 扉とアームの取付位置を正規の寸法で施工した場合の数値です。
- 手動タイプも電動タイプも同じ寸法です。
- B寸法（カーポート～オーバードア柱寸法）は全開時に扉が柱からはみ出す寸法+100mm以上必要です。

(2) ハイルーフの場合

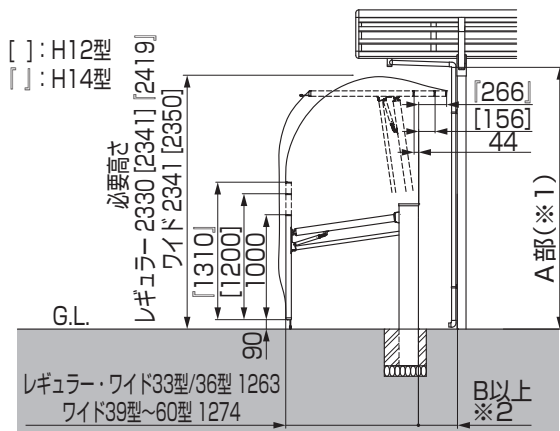
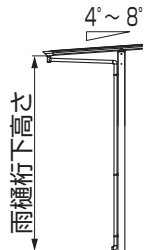


図2-14 側面図 (ハイルーフの場合)

●各仕様の雨樋桁下高さ



奥行	アーキデュオ 3台用		アーキデュオ プレミアム 3台用	
	50型	57型	50型	57型
屋根傾斜	4°	2370	2356	2321
	5°	2301	2278	2253
	6°	2231	2200	2185
	7°	2162	2122	2116
	8°	2093	2044	1999

※1：A部はGL~エルボ下の寸法です。(ドレンエルボではありません。)

※2：B部はオーバードア柱~カーポート柱の寸法です。

※3：Gルーフ カールーフタイプはH24柱を表中の標準柱に、H29柱を表中のロング柱に置き換えてご覧ください。
Gルーフ カールーフタイプはルーフ用中間柱90×140を選択した場合の寸法です。

※4：ソルディーポート・ウィンスリーポートⅡ・テリオスポートⅢはロング柱30を表中のH28柱に置き換えてご覧ください。

表2-8 オーバードア・カーポートの組み合わせ可否表
(オーバードアを桁下に施工できるカーポート)

A部可否	ハイルーフタイプ				H10 オーバードアS				H12 オーバードアS				H14 オーバードアS			
	カーポート仕様				標準柱	ロング柱	H28柱	B寸法	標準柱	ロング柱	H28柱	B寸法	標準柱	ロング柱	H28柱	B寸法
	オーバードア仕様				ハイルーフ	ハイルーフ	ハイルーフ		ハイルーフ	ハイルーフ	ハイルーフ		ハイルーフ	ハイルーフ	ハイルーフ	
	カーポートSC 1台用 (1500含)	×	○	○	60	×	○	○	260	×	○	○	370	×	○	○
	カーポートSC 2台用 (1500含)	×	○	○	60	×	○	○	260	×	○	○	370	×	○	○
	アーキデュオ	×	×	○	160	×	×	○	360	×	×	○	470	×	×	○
	Gルーフ カールーフタイプ	×	※3	○	※3	-	110	×	※3	○	※3	-	420	×	※3	○
	アーキフラン 1台用	×	○	○	L50: 2380	×	○	○	L50: 2380	×	○	○	L50: 2380	×	○	○
	アーキフラン 2台用	×	○	○	L58: 2930	×	○	○	L58: 2930	×	○	○	L58: 2930	×	○	○
	ソルディーポート 1台用	×	×	○	※4	140	×	×	○	※4	340	×	×	○	※4	450
	ソルディーポート 2台用	×	×	○	※4	140	×	×	○	※4	340	×	×	○	※4	450
	ウィンスリーポートⅡ・テリオスポートⅢ 4本柱	×	×	○	※4	140	×	×	○	※4	340	×	×	○	※4	450
	ウィンスリーポートⅡ・テリオスポートⅢ 6・8本柱	×	○	○	※4	140	×	○	○	※4	340	×	×	○	※4	450
	アーキデュオ 3台用	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	アーキデュオ プレミアム 3台用	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	フーゴ R 1台用 (900含)	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	フーゴ R 2台用 (900含)	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	フーゴ F 1台用 (900含)	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	フーゴ F 2台用	×	×	○	140	×	×	○	340	×	×	○	450	×	×	○
	フーゴ A 1台用 (プラス含)	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	フーゴ A 2台用 (プラス含)	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	ネスカ R 1台用	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	ネスカ R 2台用	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	ネスカ F 1台用	×	○	○	110	×	○	○	310	×	○	○	420	×	○	○
	ネスカ F 2台用	×	×	○	140	×	×	○	340	×	×	○	450	×	×	○
	ファインポートⅡZ 1台用	×	×	-	120	×	×	-	320	×	×	-	430	×	×	-
	ファインポートⅡZ 2台用	×	×	-	120	×	×	-	320	×	×	-	430	×	×	-
	レガーナポートシグマⅢ	×	×	-	110	×	×	-	310	×	×	-	420	×	×	-
	カルエードシグマⅢ	×	×	○	110	×	×	○	310	×	×	○	420	×	×	○
	リベルポートシグマⅢ	×	×	○	110	×	×	○	310	×	×	○	420	×	×	○
	テールポートシグマⅢ 1台用 (1500含)	×	×	×	110	×	×	×	310	×	×	×	420	×	×	×
	テールポートシグマⅢ 2台用 (1500含)	×	×	×	110	×	×	×	310	×	×	×	420	×	×	×

1) ○印は組み合わせ可能です。(○=オーバードア必要高さ<カーポートA部寸法) 2) アーキデュオ3台用およびアーキデュオプレミアム3台用は屋根傾斜により組み合わせ不可となる場合がありますので、雨樋桁下高さの表を参照してください。

ポイント

- 扉とアームの取付位置を正規の寸法で施工した場合の数値です。
- 手動タイプも電動タイプも同じ寸法です。
- B寸法 (カーポート~オーバードア柱寸法) は全開時に扉が柱からはみ出す寸法+100mm以上必要です。

2. (つづき)

2-5 カーポートとの組み合わせ（カーポートの外に設置する場合）

ポイント

- カーポート桁からオーバードア全開時の扉とのすきまは、100mm以上のクリアランスが必要です。
- 扉とアームの取付位置を正規の寸法で施工した場合の数値です。

(1) 標準の場合

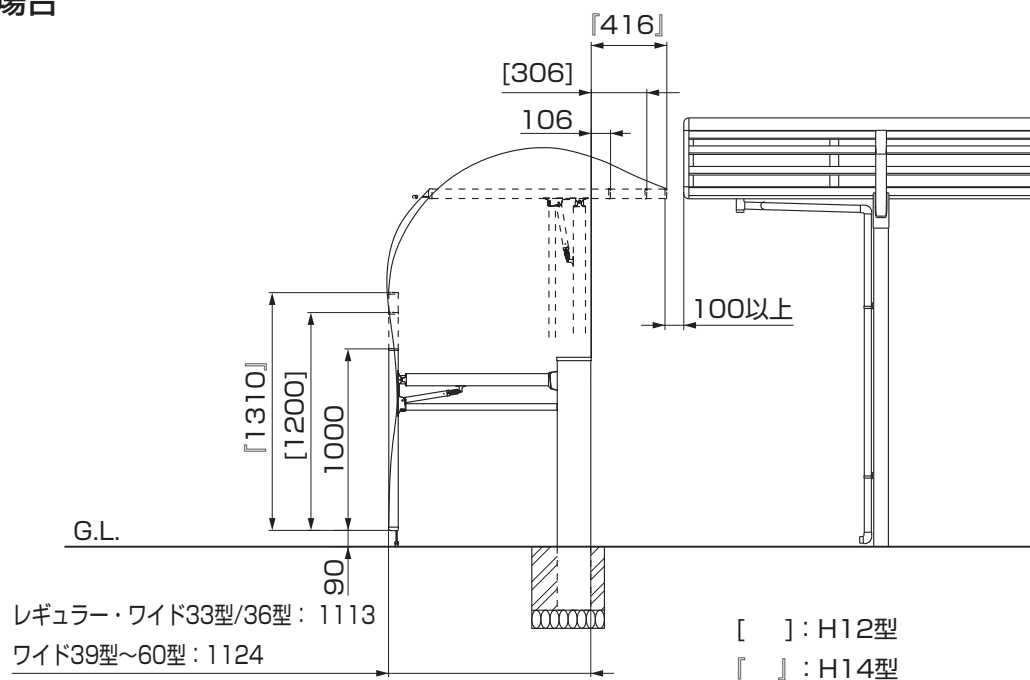


図2-15 側面図（標準の場合）

(2) ハイルーフの場合

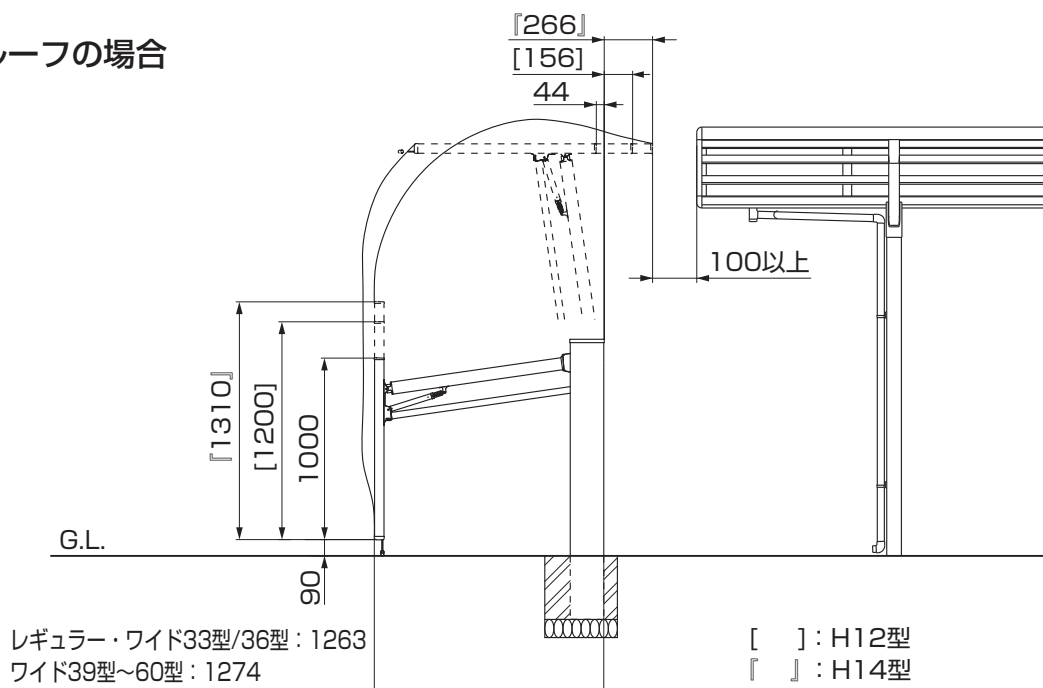
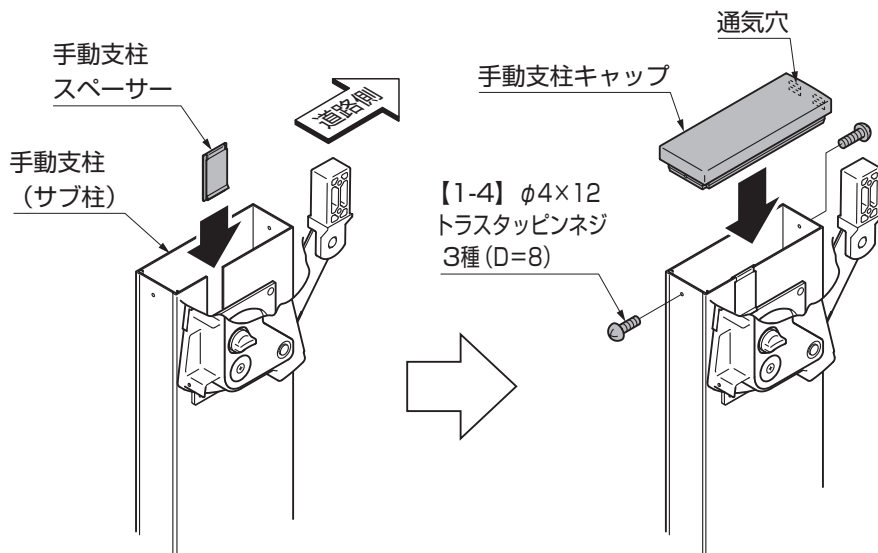


図2-16 側面図（ハイルーフの場合）

3. 基礎施工

3-1 基礎施工の前に

(1) 手動支柱スペーサーと支柱キャップの取付け



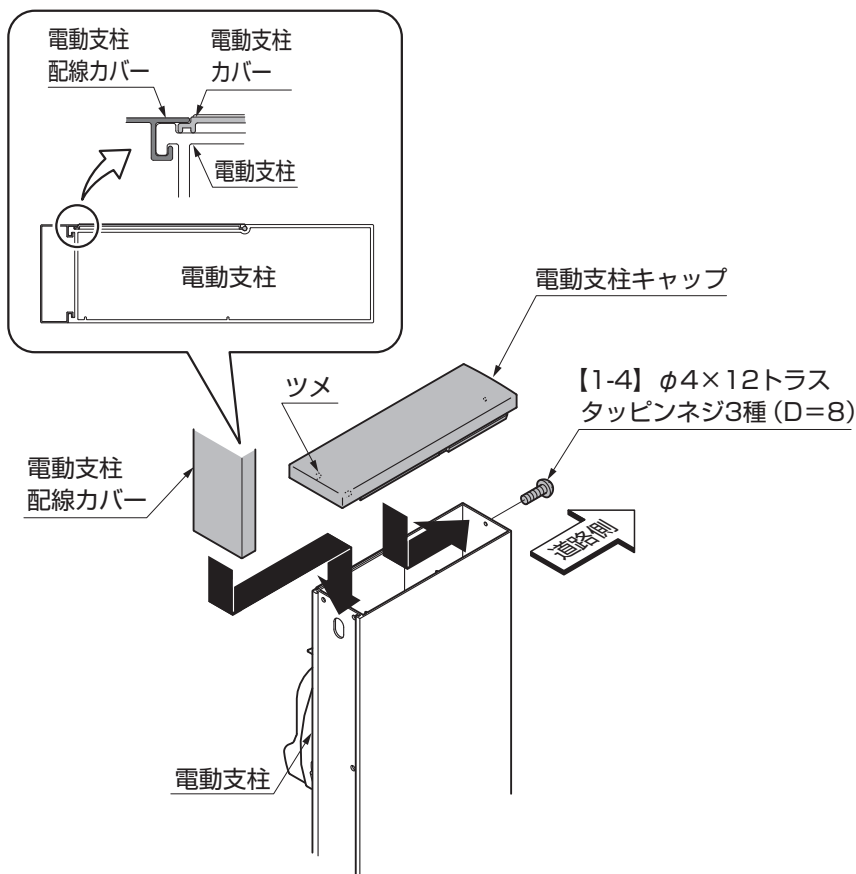
- ①手動支柱スペーサーを手動支柱（サブ柱）に差込んでください。
- ②手動支柱キャップを手動支柱（サブ柱）に【1-4】で取付けてください。

補足

- 手動支柱キャップを取付けることで、施工中の支柱内への水やホコリの進入を防ぎます。
- 手動支柱キャップには向きがあります。通気穴がある面を道路側にむけてください。

図3-1 手動支柱（サブ柱）の場合

(2) 電動支柱キャップの仮止め



- ①電動支柱配線カバーをスライドさせ電動支柱に組付けてください。

ポイント

- 配線カバーをスライドする際は、電動支柱カバーが必ず配線カバーの内側になるようにしてください。

- ②電動支柱キャップをスライドさせて電動支柱（主柱）にツメを引掛け、【1-4】で仮止めしてください。

補足

- 電動支柱キャップを仮止めすることで、施工中の支柱内への水やホコリの進入を防ぎます。

図3-2 電動支柱の場合

3. (つづき)

3-2 施工寸法

(1) 施工時の注意

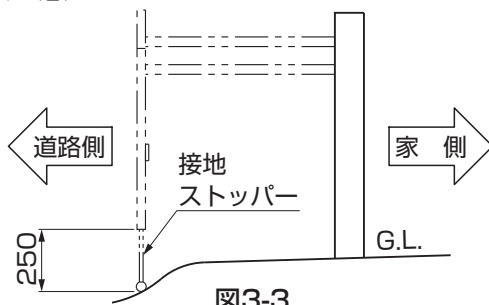


図3-3

ポイント

- 水切勾配がある所に施工するときは、支柱埋込位置と扉取付位置との均配差をできるだけ少なくしてください。接地ストッパーは最大250mmまで調整できます。（図3-3参照）
- それ以上すき間があるときは、ロング接地ストッパーセット **オプション** を使用してください。+100mmまで対応可能です。

ポイント

- 左右の支柱が前後にずれないように施工してください。また、A寸法は0mmを守ってください。（図3-4参照）

ポイント

- 左右の支柱を平行に、施工してください。また、Bの角度は90°を守ってください。（図3-5参照）

ポイント

- 左右の支柱を水準器で確認し、垂直に施工してください。（図3-6参照）

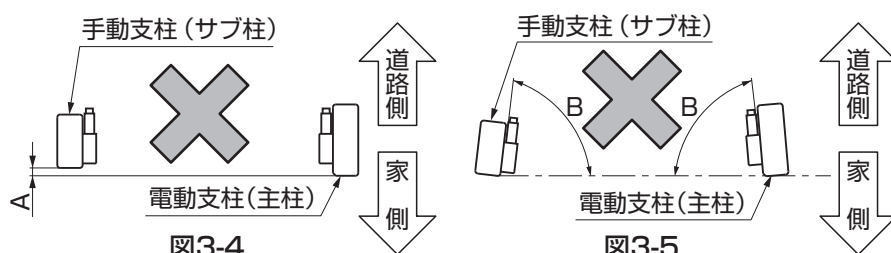


図3-4

図3-5

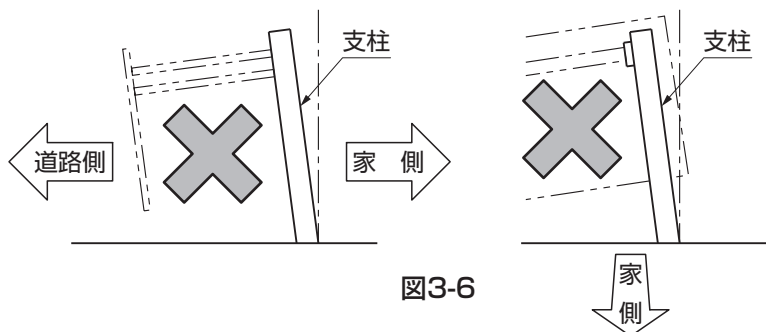
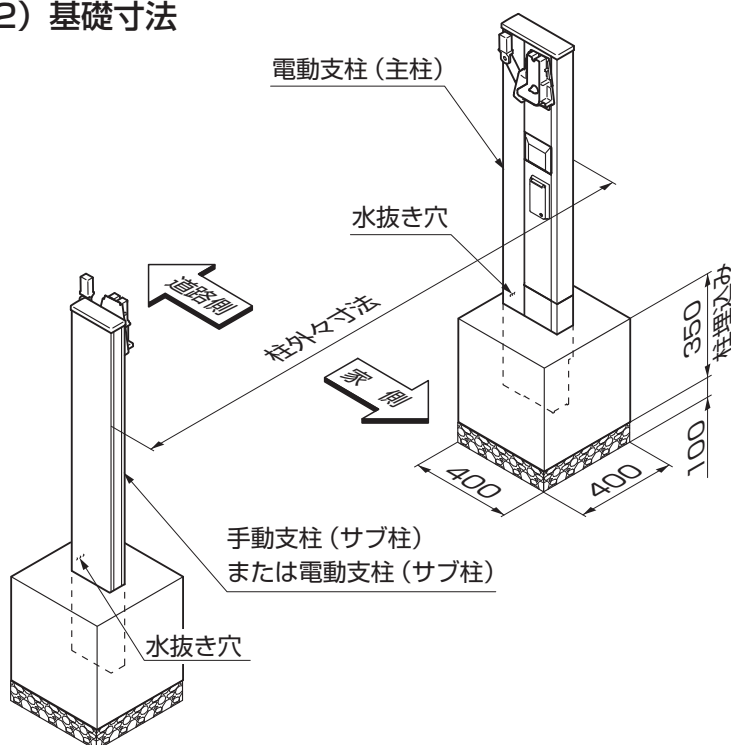


図3-6

(2) 基礎寸法



注意

- 基礎施工寸法の柱埋込み位置は、性能や耐久性、安全上重要ですので必ず守ってください。
- 支柱の埋込み位置・高さ・垂直度・水平度を十分に調整してください。調整が不十分の場合、駆動部に負荷がかかり、扉の作動に支障が生じ、耐久性・安全性に影響します。

(3) 埋設管立ち上げ位置

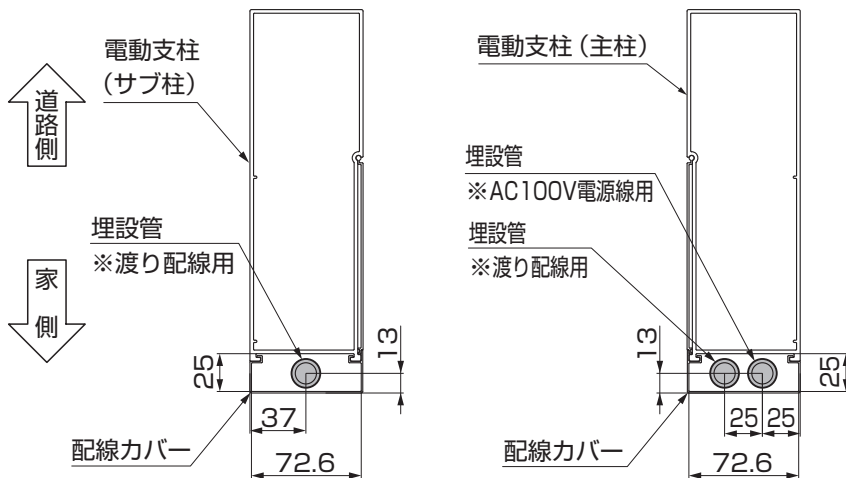


図3-7 埋設管立ち上げ位置

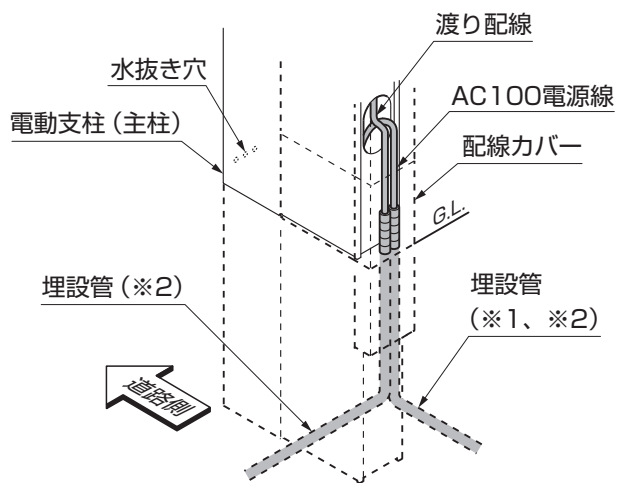
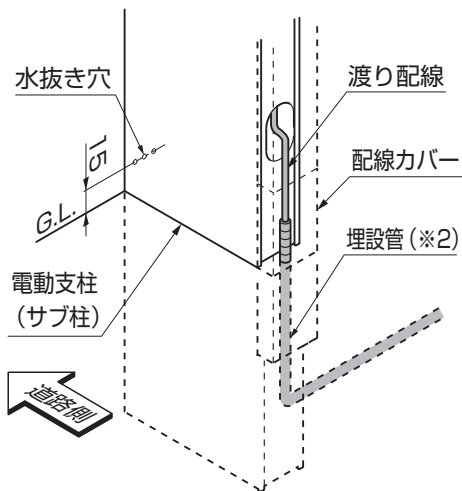
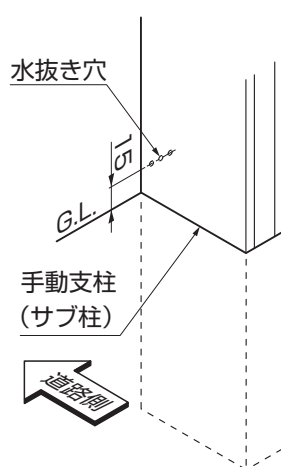


図3-8 主柱側



電動支柱の場合



手動支柱の場合
(埋設管はありません。)

図3-9 サブ柱側

⚠ 注意

- 水抜き穴は確実にG.L.面より上に出してください。水抜き穴をふさぐと柱の中に水がたまり、湿気による腐蝕などで強度低下や故障の原因になります。

🔑 ポイント

- 電動支柱（主柱）側に電源用の配管（呼び径14PF管）が必要になります。（※1）また、電源線はG.L.から350mm以上必要です。
- 埋設管はG.L.から60mm以上立ち上げてください。（※2）

4. 配線工事

⚠ 注意

●AC100V線の施工に関しては、電気工事の有資格者に依頼してください。

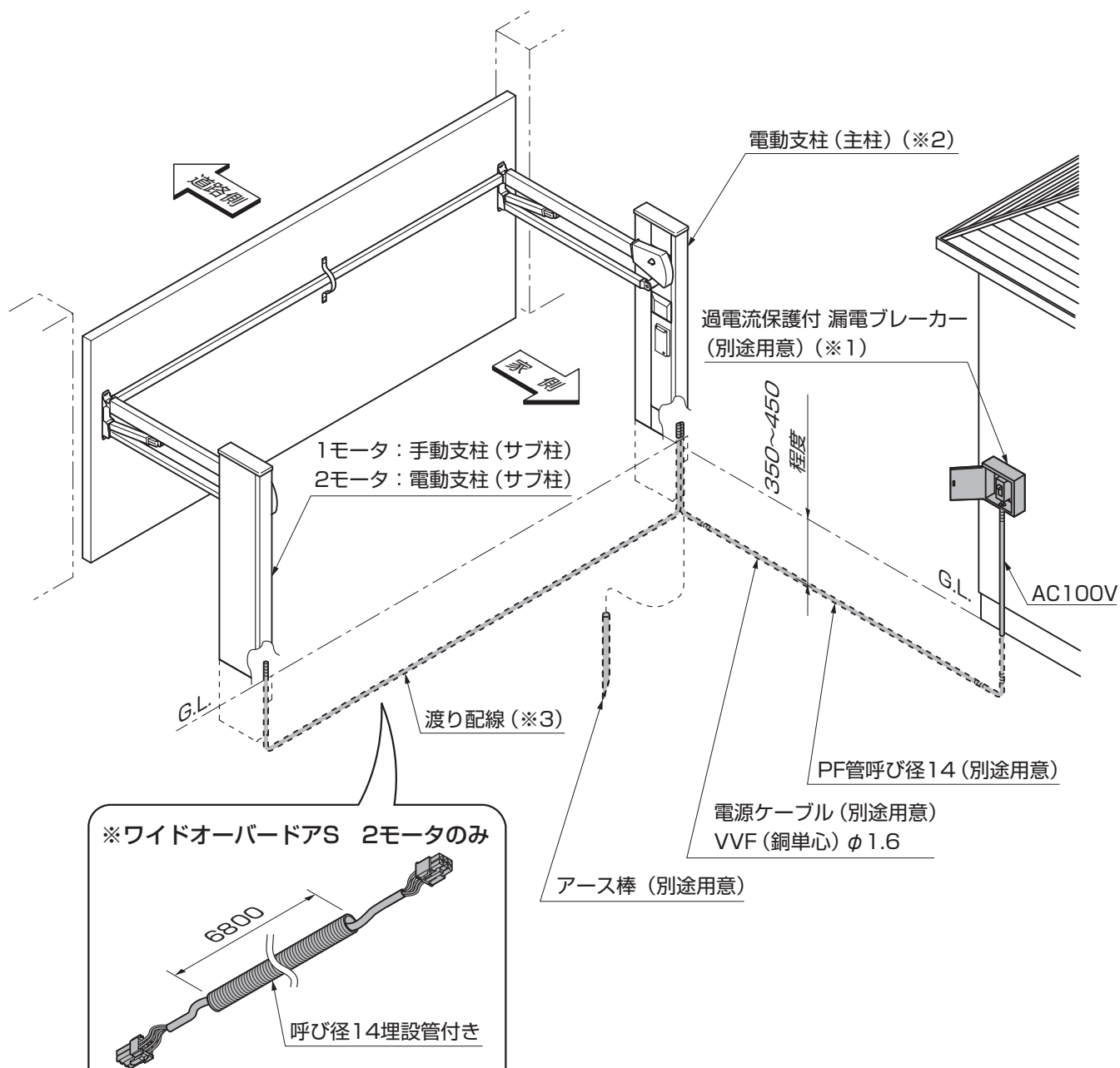


図4-1 渡り配線 (左右はありません)

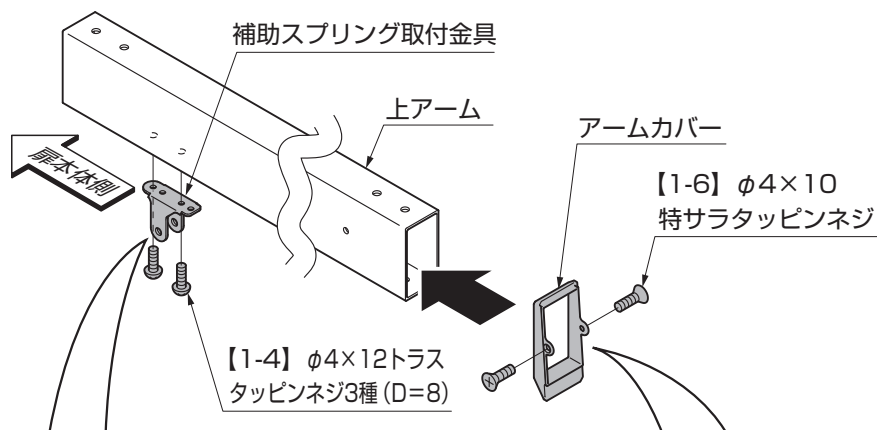
🔑 ポイント

- 施工には、別途過電流保護付漏電ブレーカーおよび埋設用PF管(呼び径14)、電線ケーブル、アース棒が必要になりますのでご用意ください。
- 電源用電線ケーブルは必ず過電流保護付漏電ブレーカーに接続してください。(※1)
- 電動支柱(主柱)には、D種接地工事を行ってください。(※2)
- 渡り配線はワイドオーバードア S 2モータのみ必要になります。(※3)

5. アームの取付け

5-1 アームの組立て

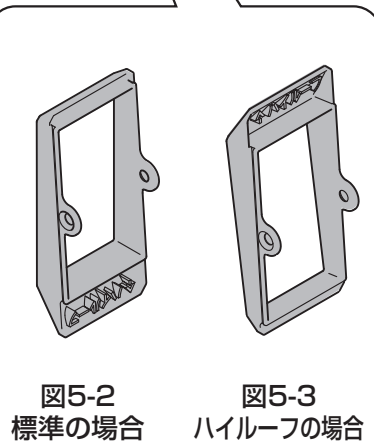
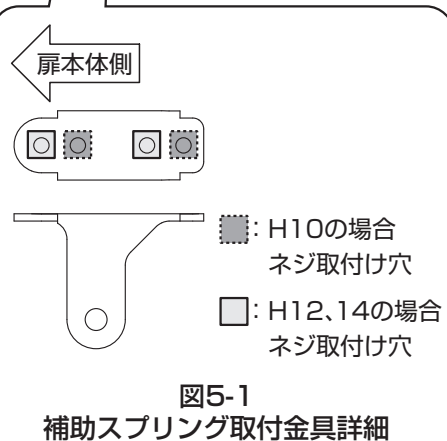
(1) アームカバーと補助スプリング取付金具の組立て



①補助スプリング取付金具を上アームに【1-4】で取付けてください。

⚠ 注意

●補助スプリング取付金具は扉H10と扉H12・14で取付け位置が異なります。取付け位置を間違えると、バランスがくずれ途中停止の原因になり、開閉作動に支障が生じ、耐久性、安全性に影響します。(図5-1参照)

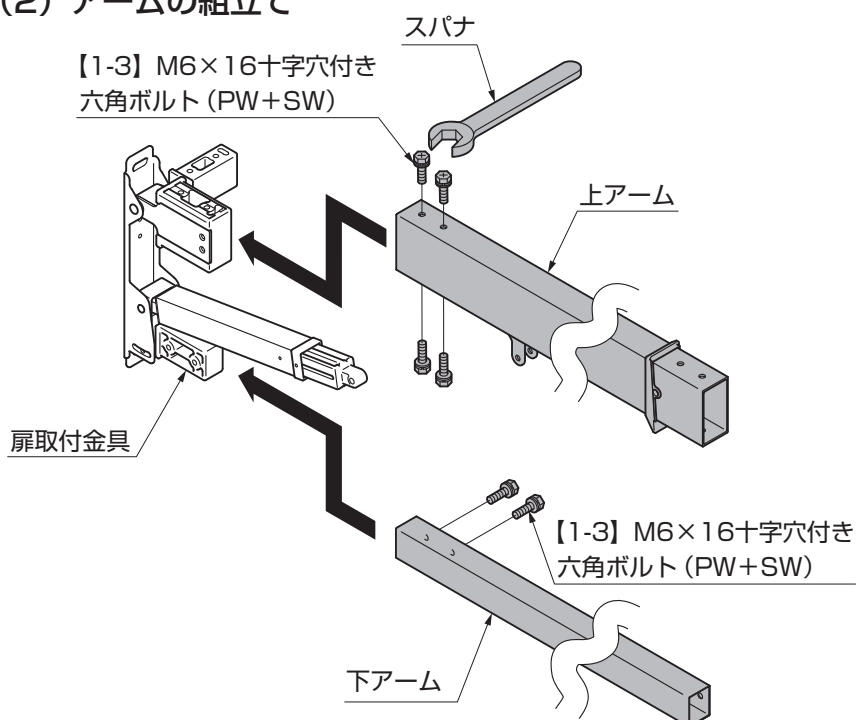


②アームカバーを上アームに【1-6】で取付けてください。

🔑 ポイント

●アームカバーは、標準タイプとハイルーフタイプで上下が異なります。上下を間違えるとアーム取付金具カバーが取付けできなくなります。(図5-2、5-3参照)

(2) アームの組立て



①上・下アームを扉取付金具に【1-3】で取付けてください。

🔑 ポイント

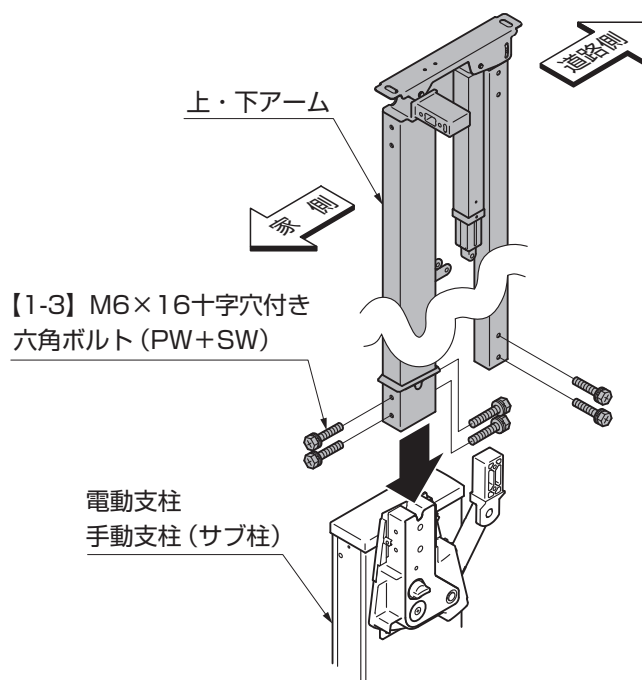
●下アームには向きがありますので、確認してから取付けてください。

⚠ 注意

●アームを取付ける【1-3】はスパナを用い、確実に締め込んでください。確実に締め込まないと、使用中にゆるみ、扉のねじれ、作動音や途中停止の原因になり、耐久性、安全性に影響します。

5. (つづき)

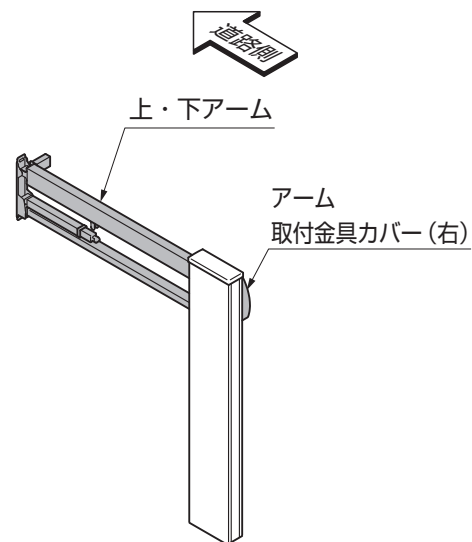
5-2 電動支柱・手動支柱(サブ柱)のアームの取付け



①上・下アームを電動支柱・手動支柱(サブ柱)に【1-3】で取付けてください。

ポイント

●上・下アームには向きがありますので、確認してから取付けてください。



5-3 電動支柱・手動支柱(サブ柱)のアームの位置決め

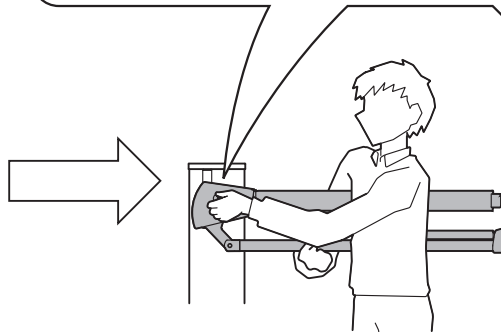
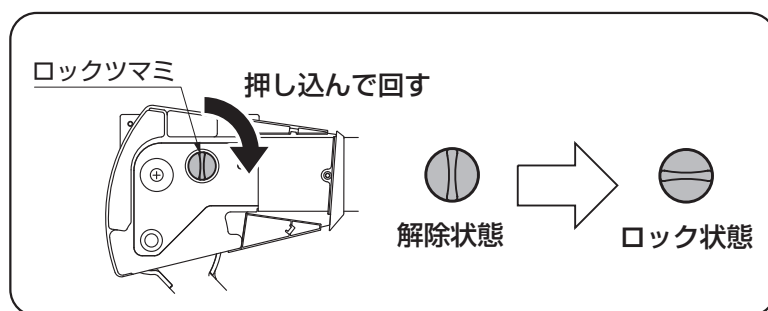
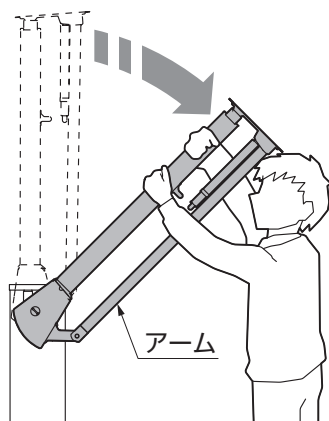


図5-4 標準の場合

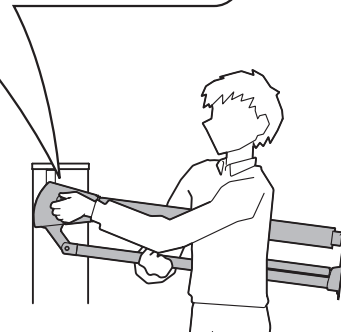
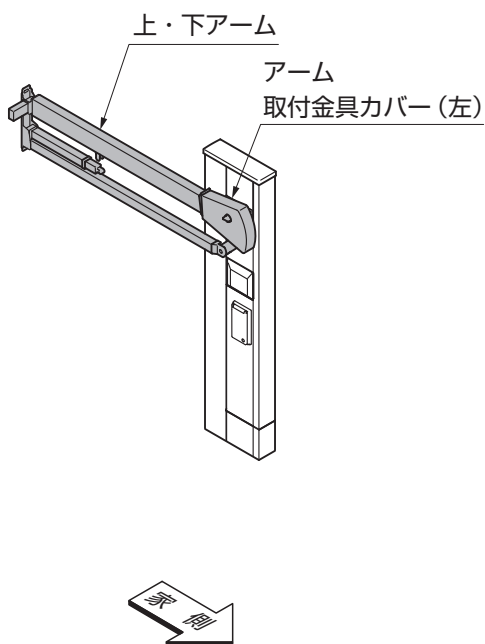
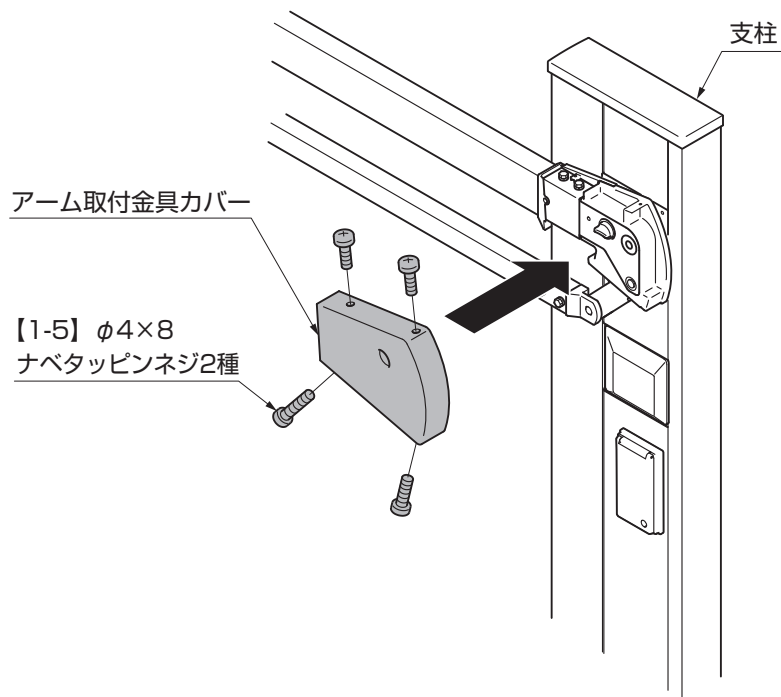


図5-5 ハイルーフの場合



5-4 アーム取付金具カバーの取付け



①アーム取付金具カバーを支柱に【1-5】で取付けてください。

①アームの先端をもち、体重をかけながら回転してロックツマミをロック状態にしてください。

警告

- アームを下げるのに、20kg以上の力が必要です。ロック状態にするまで力を抜かないように注意してください。アームが跳ね上がり、ケガをしたり重大な事故につながるおそれがあります。

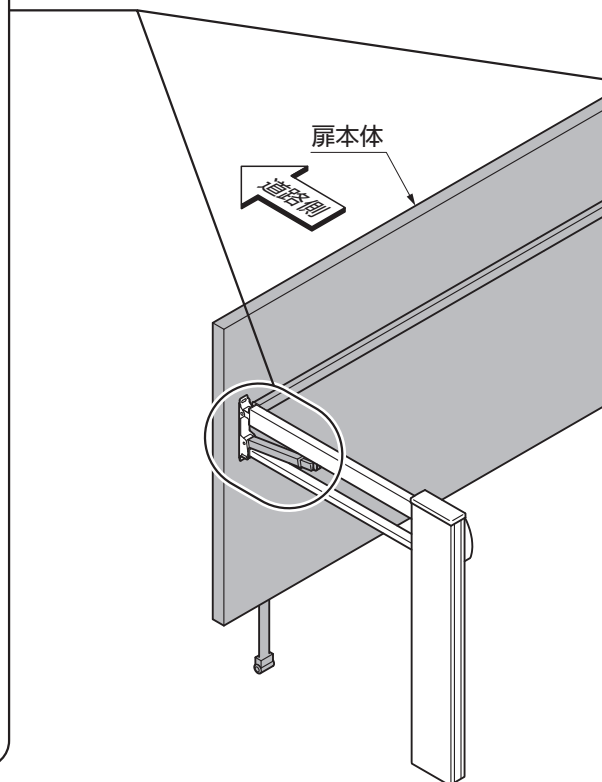
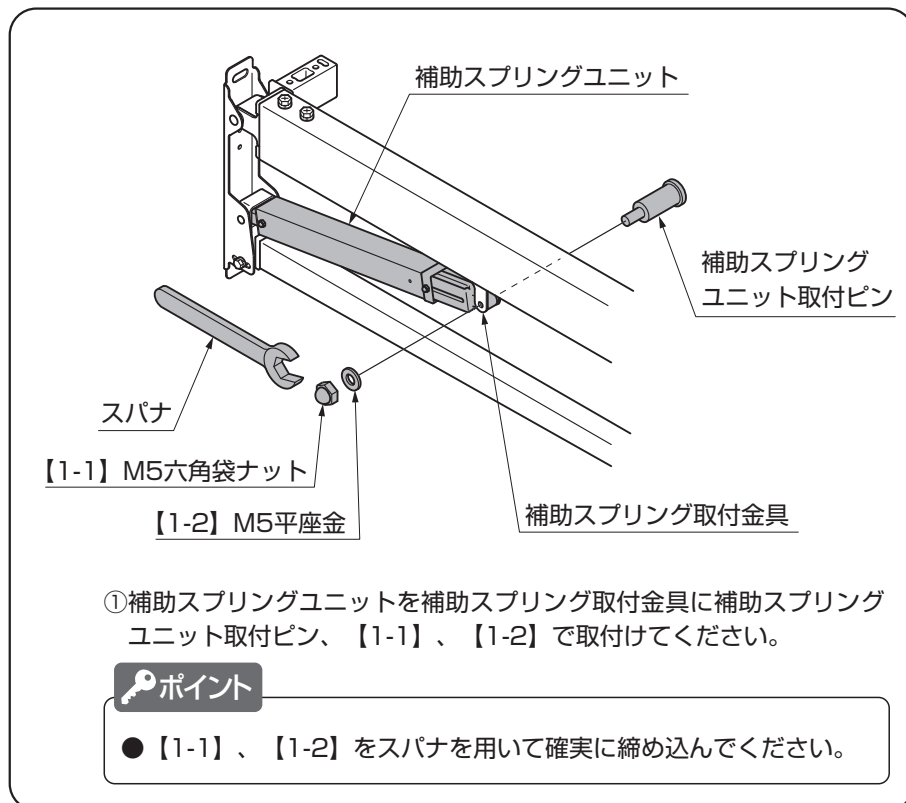
補足

- 標準の場合は、アームが水平になるように回転させてください。
- ハイルーフの場合は、ロックのかかるアームの角度が決まっています。角度を探りながら回転させてください。

警告

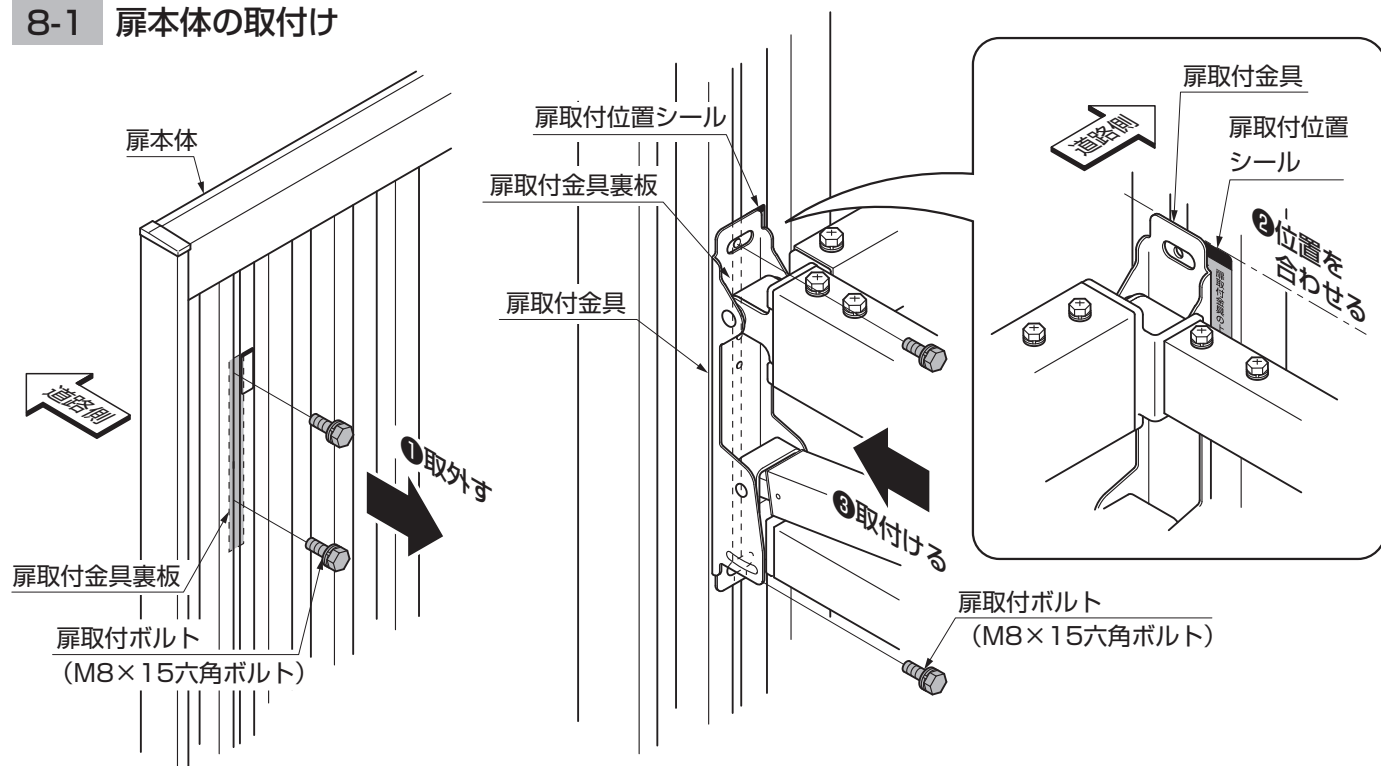
- 扉を取付けるまで、ロックを解除しないでください。ロックを解除するとアームが跳ね上がり、ケガをしたり、重大な事故につながるおそれがあります。

6. 補助スプリングユニットの取付け



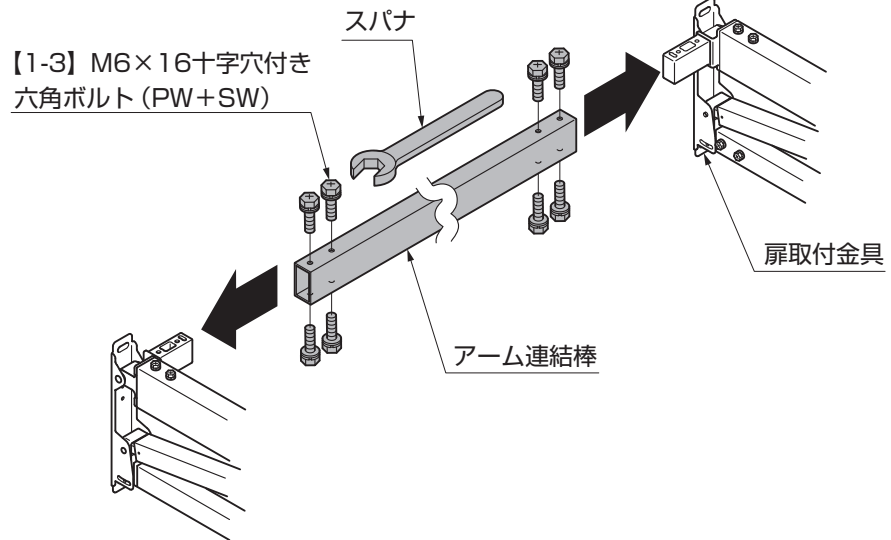
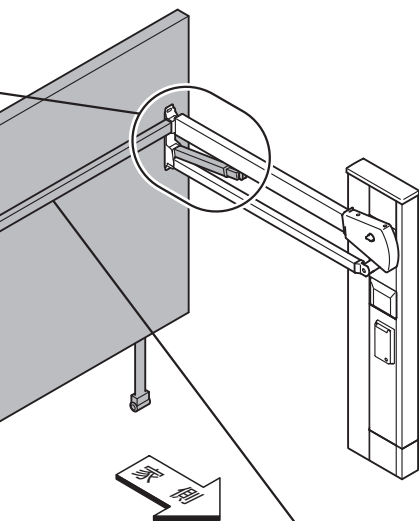
8. 扉本体の取付けと調整

8-1 扉本体の取付け



- ① 扉取付金具裏板に仮固定している扉取付ボルトを外してください。
- ② 扉取付金具の上端を扉取付け位置シールの上端の線に合わせ、扉取付ボルトで取付けてください。

7. アーム連結棒の取付け



- ①左右のアームを横に押し広げ、アーム連結棒を扉取付金具に差込み、【1-3】で取付けてください。

⚠ 注意

- 【1-3】をスパナを用いて確実に締め込んでください。確実に締め込まないと、使用中にゆるみ、扉のねじれ、作動音や途中停止の原因になり、耐久性、安全性に影響します。

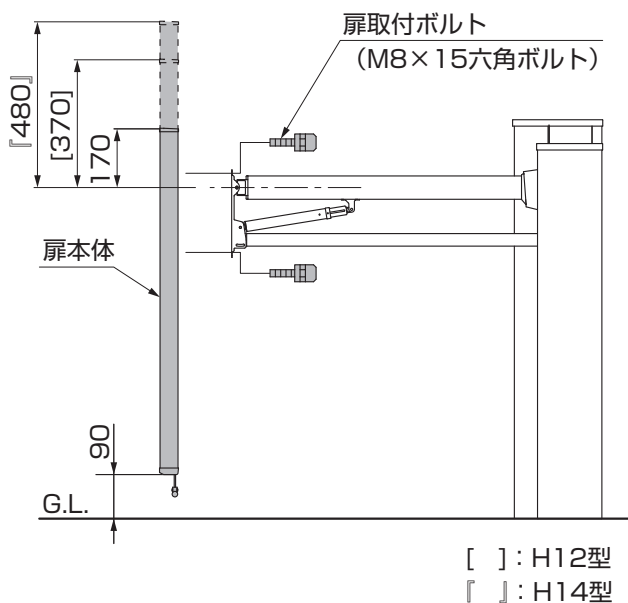


図8-1 標準の場合

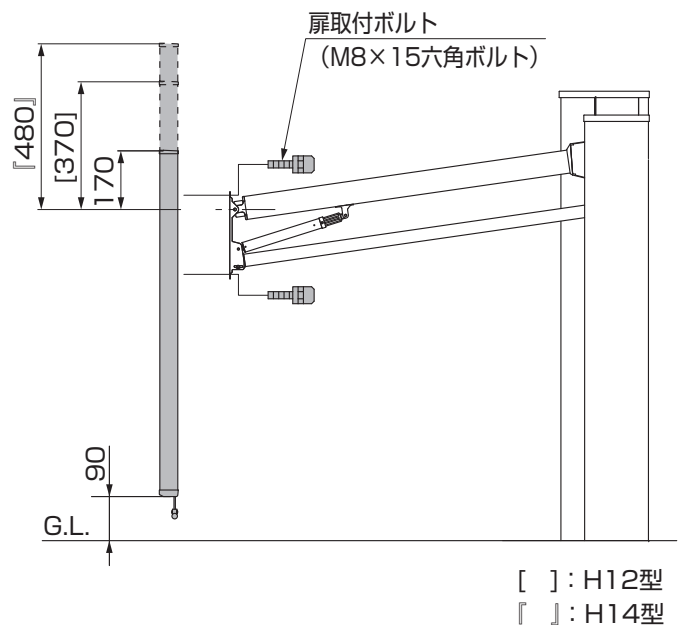


図8-2 ハイルフの場合

⚠ 注意

- 取付け寸法を必ず確認してください。扉本体とアームの取付け位置がずれているとバランスがくずれ、扉の開閉が途中で停止したり、耐久性・安全性に影響します。

8. (つづき)

8-2 扉本体の垂直調整と接地ストッパーの仮止め

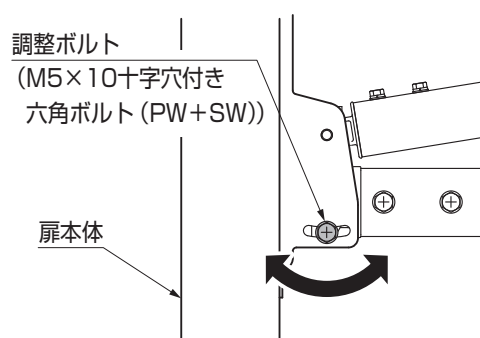
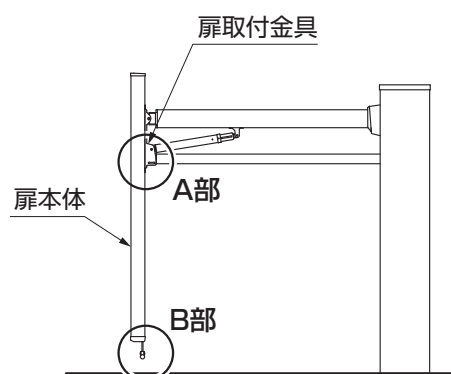


図8-3 A部詳細図

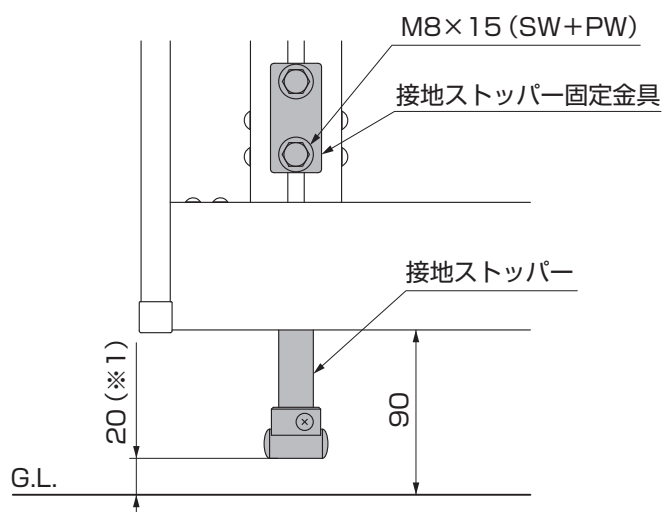
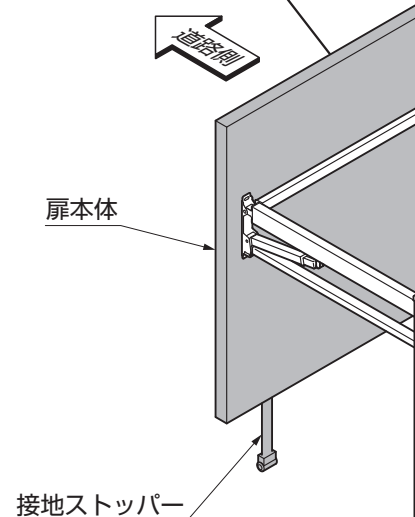


図8-4 B部詳細図

- ① 扉本体が垂直になるように、扉取付金具の調整ボルトをゆるめて調整してください。(図8-3参照)
- ② 接地ストッパーはG.L.から20mm浮かせた状態で仮止めをしてください。(図8-4参照)

補足

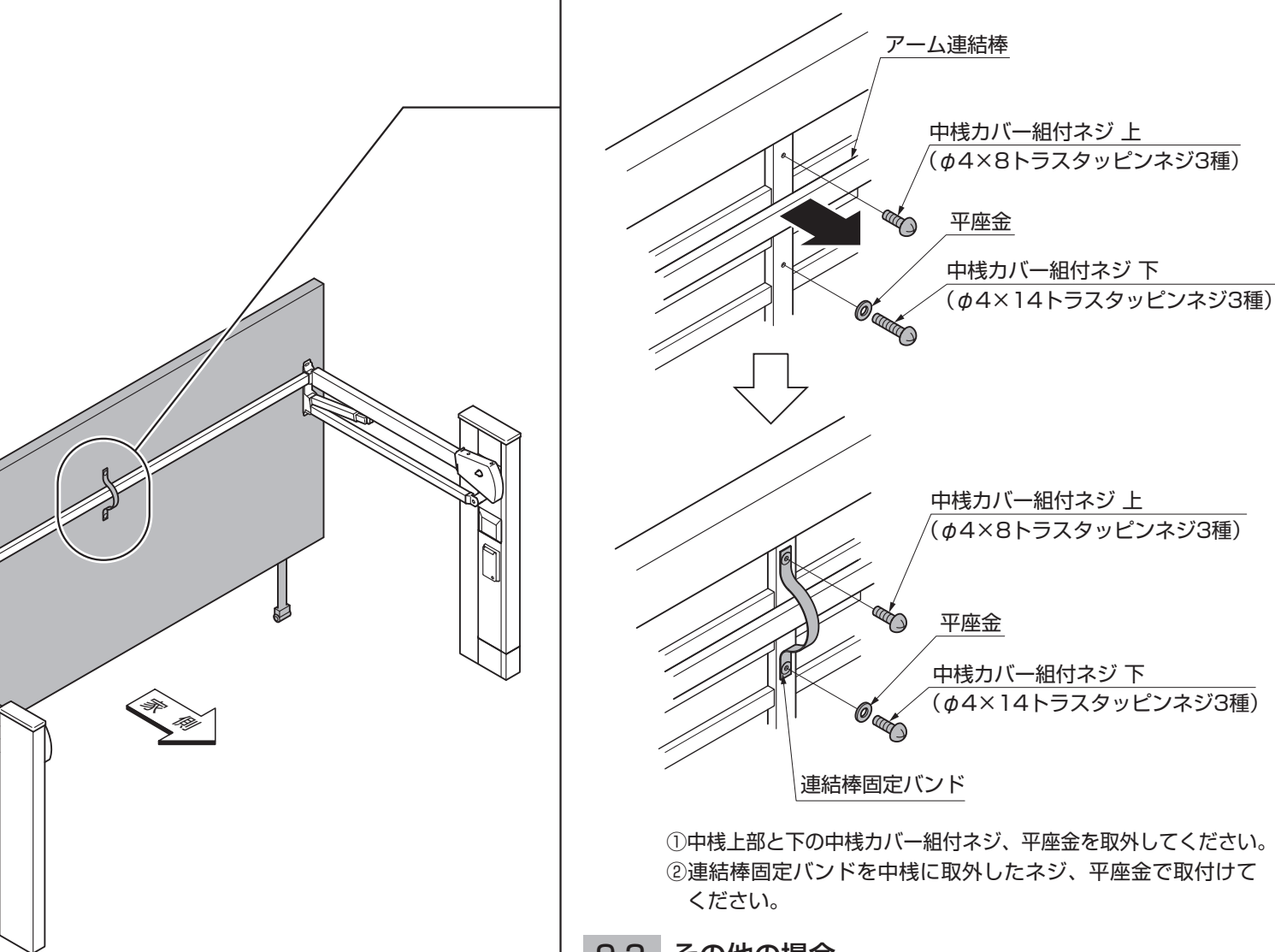
- 接地ストッパーは、後工程で最終位置決めをします。



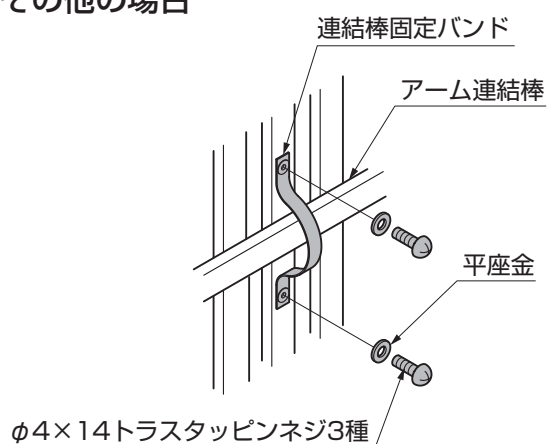
9. 連結棒固定バンドの取付け

※ワイドオーバードア W39以上の場合のみの作業です。

9-1 1型・3型・5型・8型のH10の場合



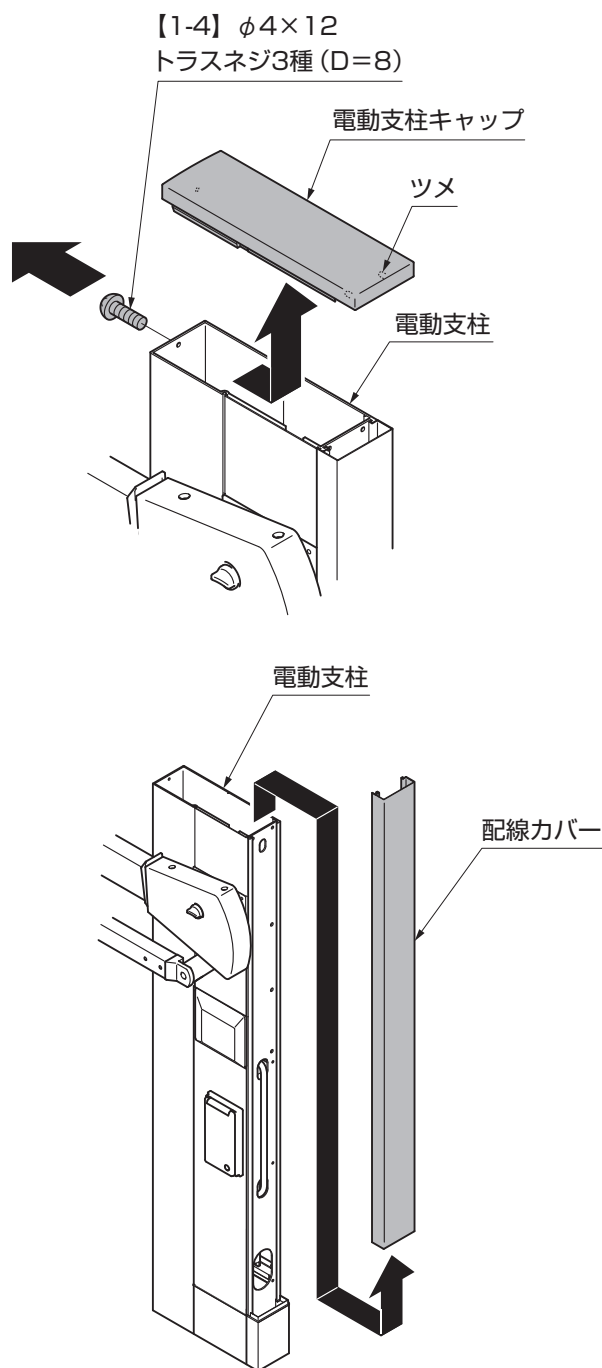
9-2 その他の場合



10. 電源の接続

10-1 接続の前に

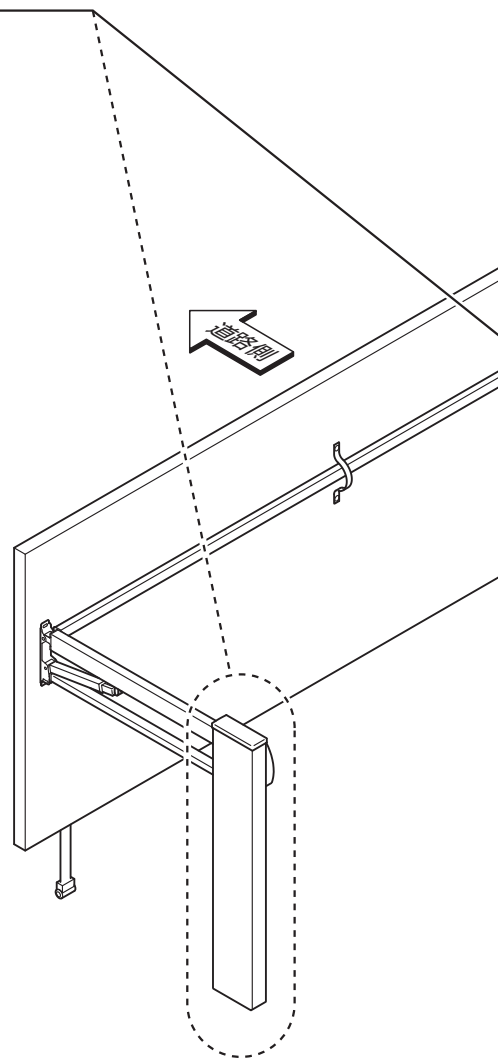
※ワイドオーバードアS 2モータの場合は、
電動支柱（主柱）・（サブ柱）の両方に行なってください。



- ① 電動支柱キャップを電動支柱から取外してください。
- ② 配線カバーを電動支柱からスライドして取外してください。

補足

- 取外した【1-4】は、後工程のリモコン受信器の接続後に取付けますので、無くさないように保管してください。



10-2 電源の接続

⚠ 注意

- AC100V線の施工に関しては、電気工事の有資格者に依頼してください。

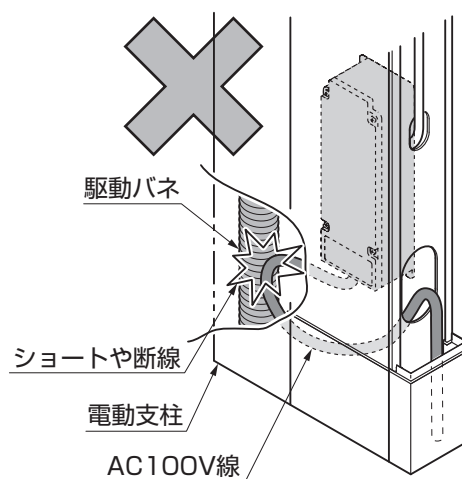
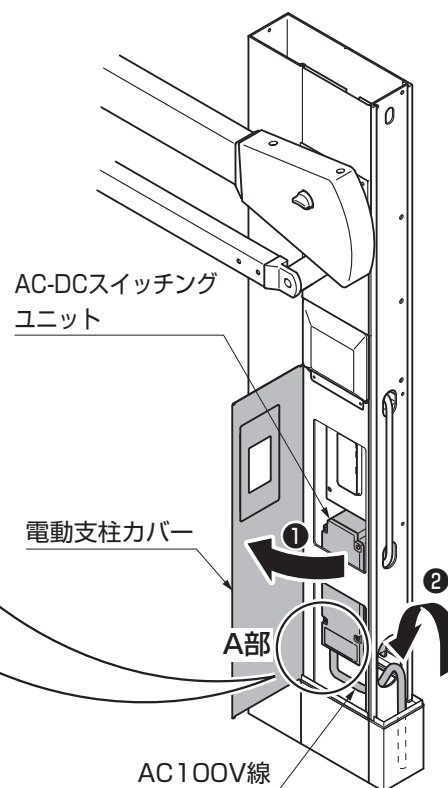
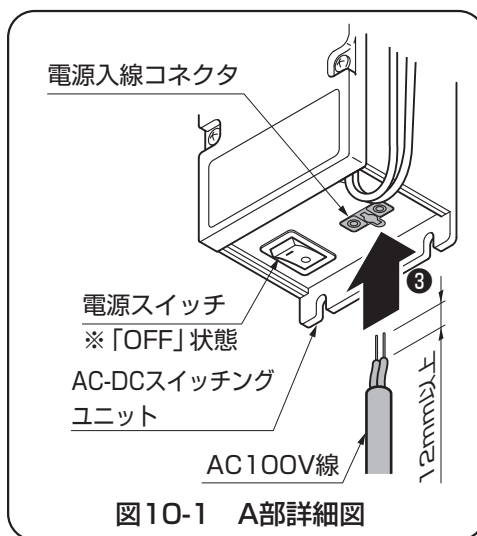


図10-2 AC100V線 接続時の注意

- ①電動支柱カバーを開いてください。
- ②AC100V線を電動支柱（主柱）内に通してください。
- ③AC100V線をAC-DCスイッチングユニットの電源入線コネクタの奥まで差込んでください。（銅芯部は12mm以上必要です。）

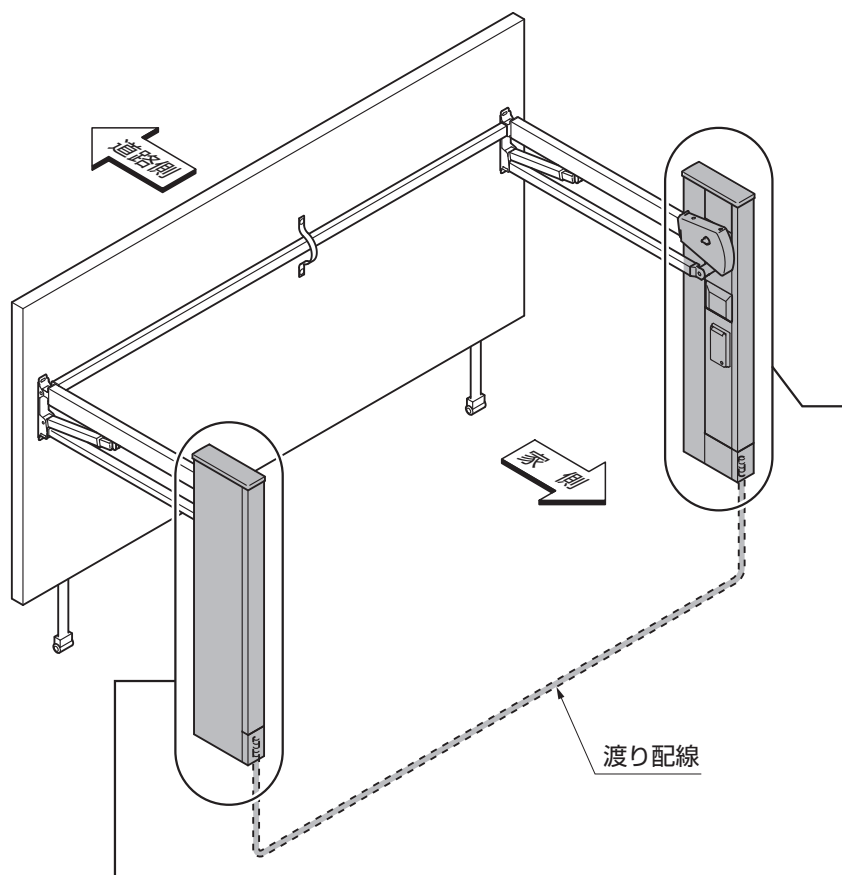
🔑 ポイント

- AC100V線は、適切な長さに切断して接続してください。配線が長すぎると支柱内の駆動バネに引っかかりショートや断線の原因になります。（図10-2参照）

✎ 補足

- 配線の接続が終わるまでは、電源スイッチを「OFF」にしておいてください。

11. 配線の接続



11-1 電動支柱（サブ柱）側の接続

※ワイドオーバードアS 2モーターの場合の作業です。
※電動支柱（サブ柱）は外観右側になります。

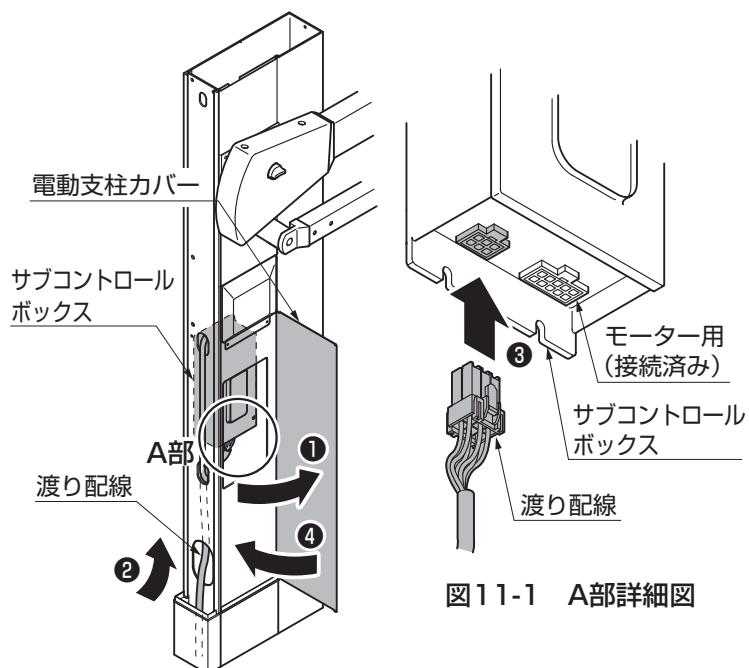


図11-1 A部詳細図

- ①電動支柱（サブ柱）の電動支柱カバーを開いてください。
- ②渡り配線を電動支柱（サブ柱）内に通してください。
- ③渡り配線をサブコントロールボックスに接続してください。
- ④電動支柱カバーを閉じてください。

11-2 電動支柱（主柱）側の接続

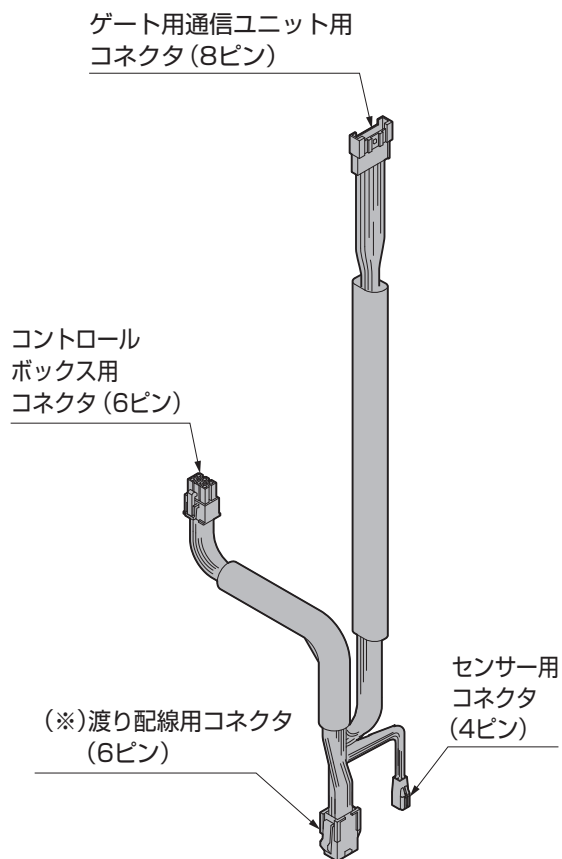


図11-2 機器接続配線

※図の配線はワイドオーバードアS 2モーター用です。オーバードアS、ワイドオーバードアS 1モーター用には渡り配線用コネクタ(6ピン)はありません。
※センサー用コネクタ(4ピン)はセンサー柱（オプション）に使用します。

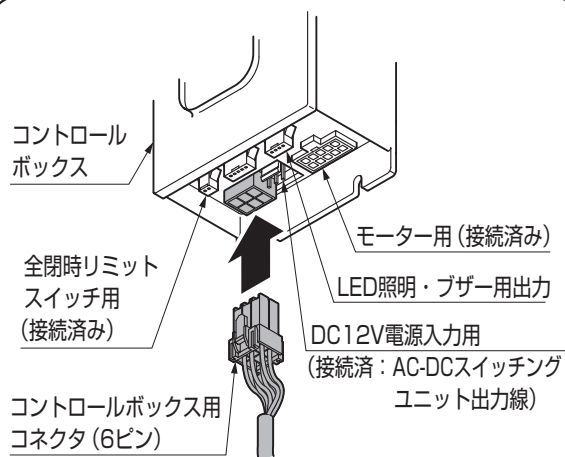
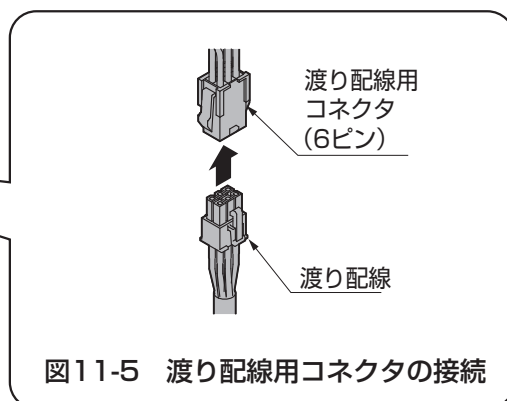
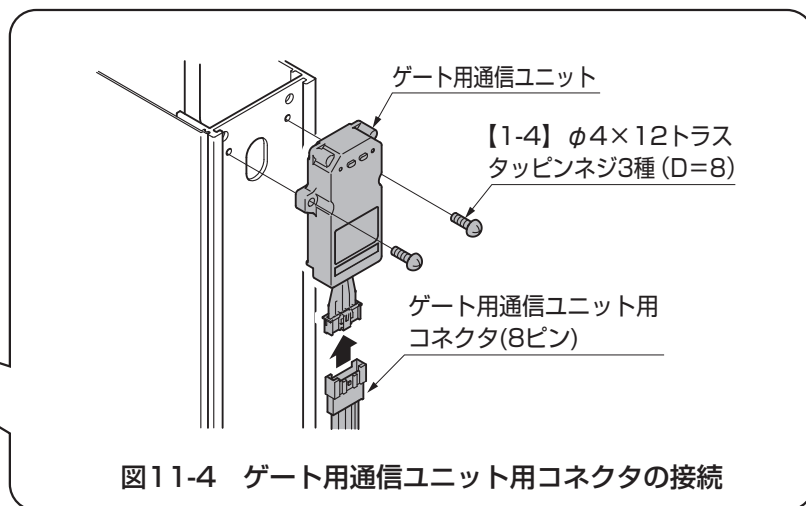
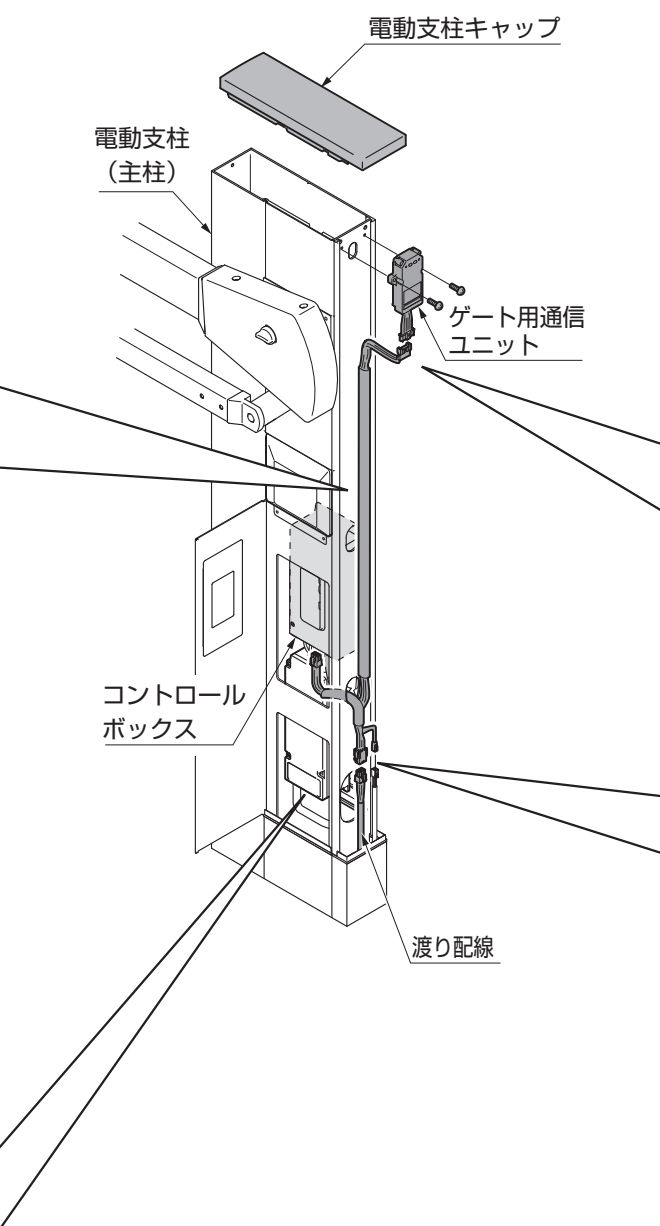


図11-3 コントロールボックス用コネクタの接続



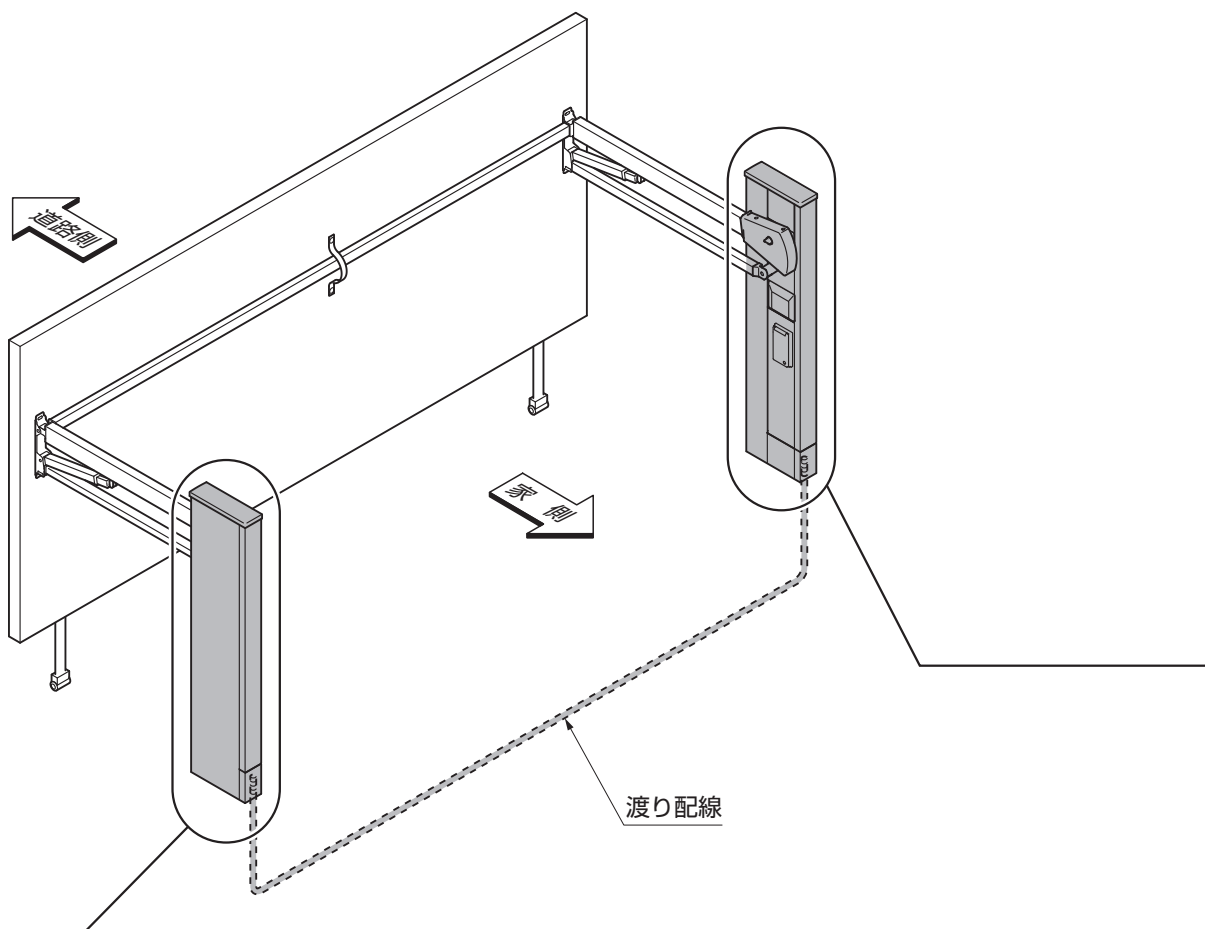
- ①機器接続配線のコントロールボックス用コネクタ (6ピン) を電動支柱 (主柱) のコントロールボックス横の長穴に通し、コントロールボックスに接続してください。(図11-3参照)

補足

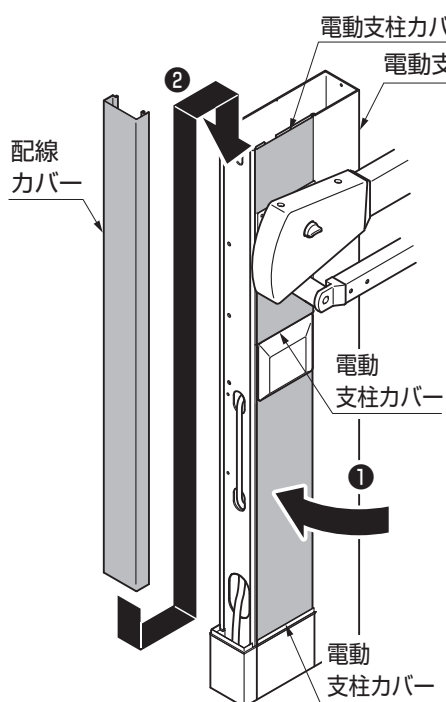
- 機器接続配線をコントロールボックスに接続する際に、前面に接続されているリミットスイッチ用コネクタを一度外してから取付けてください。取外したコネクタは、配線後に再度確実に接続してください。

- ②ゲート用通信ユニットを電動支柱 (主柱) に【1-4】で固定し、ゲート用通信ユニット用コネクタ (8ピン) を接続してください。(図11-4参照)
- ③2モータの場合、渡り配線用コネクタ (6ピン) に渡り配線を接続してください。(図11-5参照)

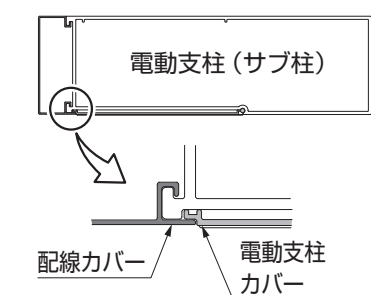
12. 接続の後に



12-1 電動支柱（サブ柱）側 ※ワイドオーバードアS 2モータの場合の作業です。

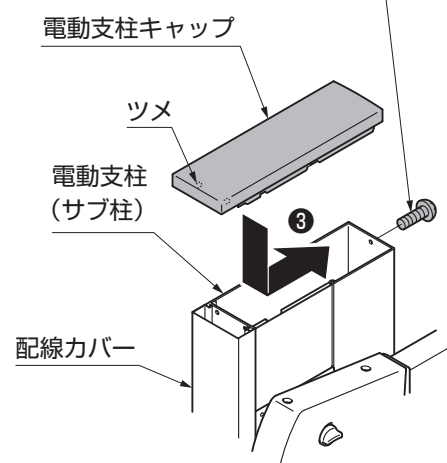


ポイント



●配線カバーをスライドする際は、電動支柱カバーが必ず配線カバーの内側になるようにしてください。電動支柱カバーが、配線カバーの内側に入っていないと、電動支柱カバーが開いて、アームが動作中破損してしまいます。

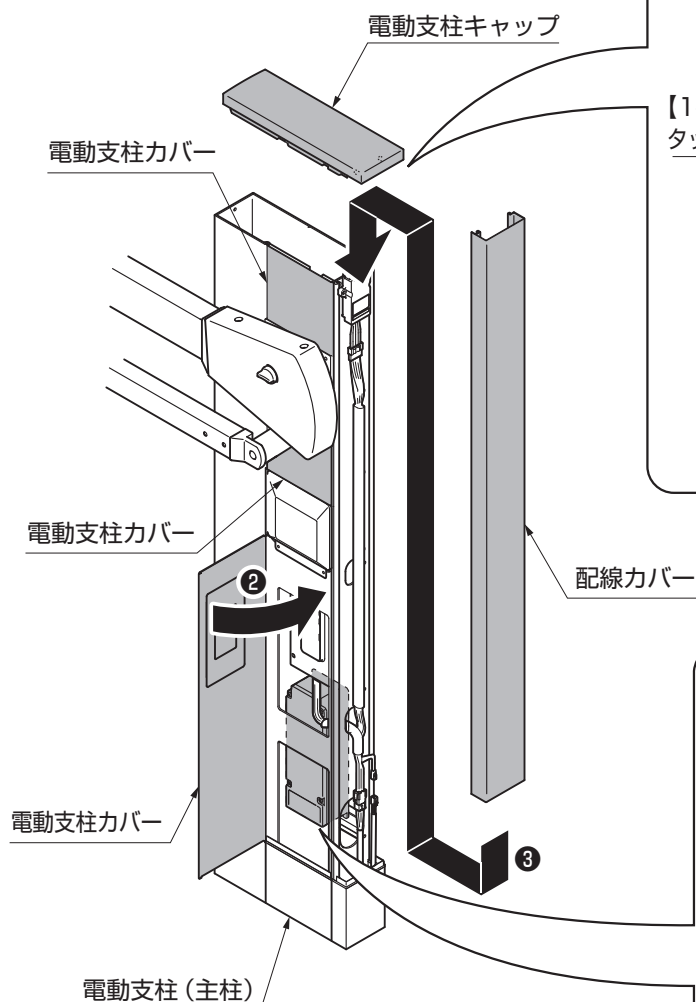
【1-4】φ4×12トラス
タッピンネジ3種 (D=8)



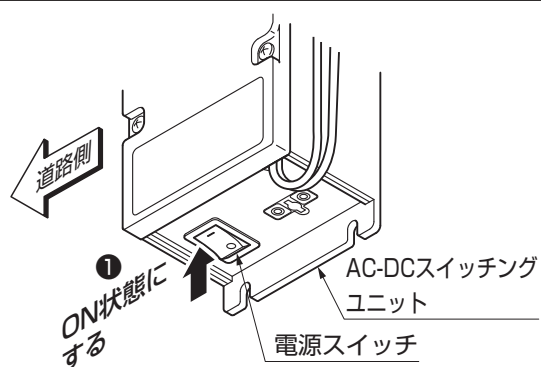
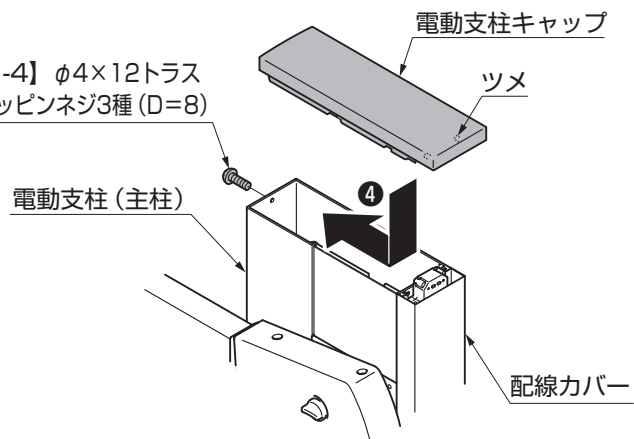
③電動支柱キャップをスライドさせて電動支柱（サブ柱）にツメを引っ掛け、【1-4】で取付けてください。

- ①電動支柱カバーを閉じてください。
- ②配線カバーを電動支柱（サブ柱）に取付けてください。

12-2 電動支柱（主柱）側



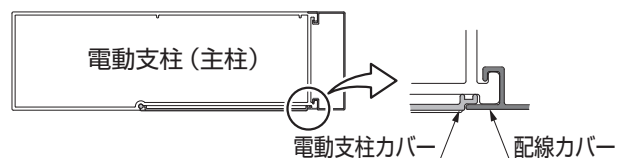
【1-4】φ4×12トラス
タッピンネジ3種 (D=8)



- ① AC-DCスイッチングユニットの電源を「ON」にしてください。
- ② 電動支柱カバーを閉じてください。
- ③ 配線カバーを電動支柱（主柱）に取付けてください。

ポイント

- 配線カバーをスライドする際は、電動支柱カバーが必ず配線カバーの内側になるようにしてください。電動支柱カバーが、配線カバーの内側に入っていないと、電動支柱カバーが開いて、アームが動作中破損してしまいます。



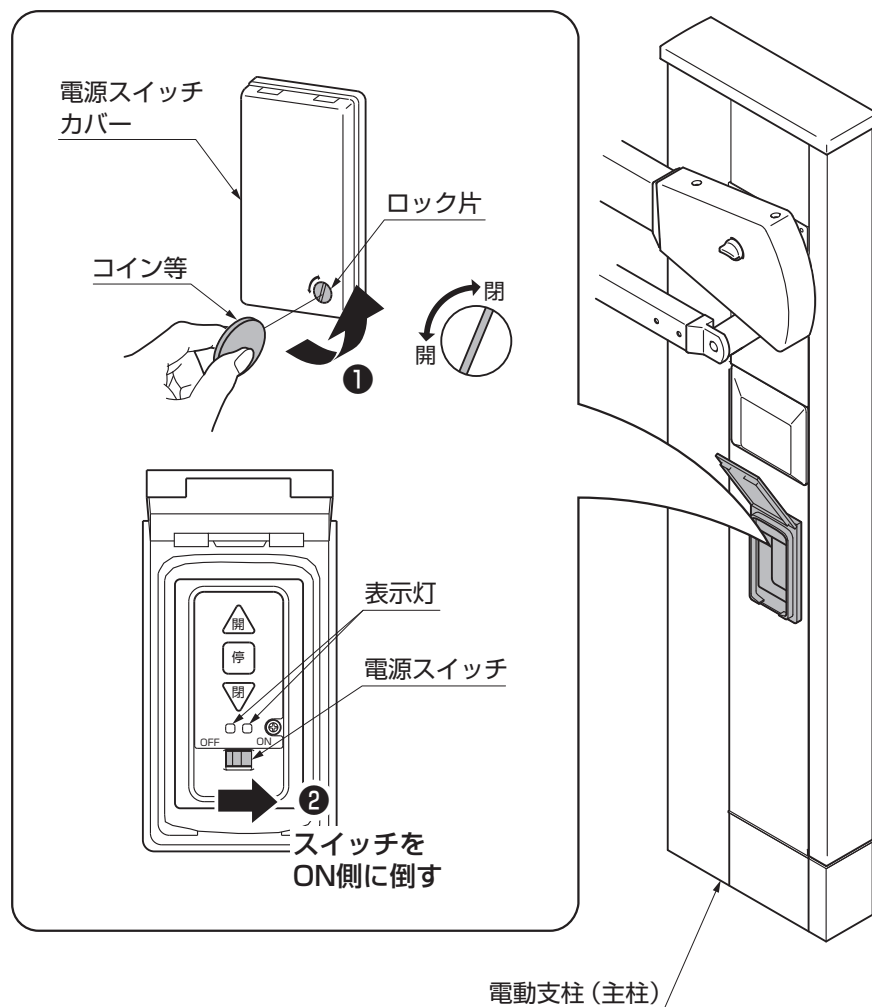
- ④ 電動支柱キャップをスライドさせて電動支柱（主柱）にツメを引っ掛け、【1-4】で取付けてください。

注意

- 配線カバーの取付けおよび電動支柱キャップの取付けの際に、機器接続配線をはさまないように注意してください。また電動支柱（主柱）内に納める際に、駆動部品に絡まないように注意してください。断線やショートにより作動不良や途中停止の原因になり、耐久性、安全性に影響します。

13. 使用方法

13-1 電源の入れ方



- ①電源スイッチカバーを開いてください。
- ②コントロールボックスの電源を「ON」にしてください。

補足

●電源スイッチを「ON」後、電源スイッチの上にあるON、OFFの表示灯が点滅し「OFF」が点灯します。しばらくたつと消灯します。表示灯が点灯しない場合はAC-DCスイッチングユニットの電源が「ON」になっているか確認してください。

(「12. 接続の後に 12-2 電動支柱 (主柱) 側」参照)

13-2 リモコン送信器の登録・登録取消し

(1) 登録・登録取消しの前に

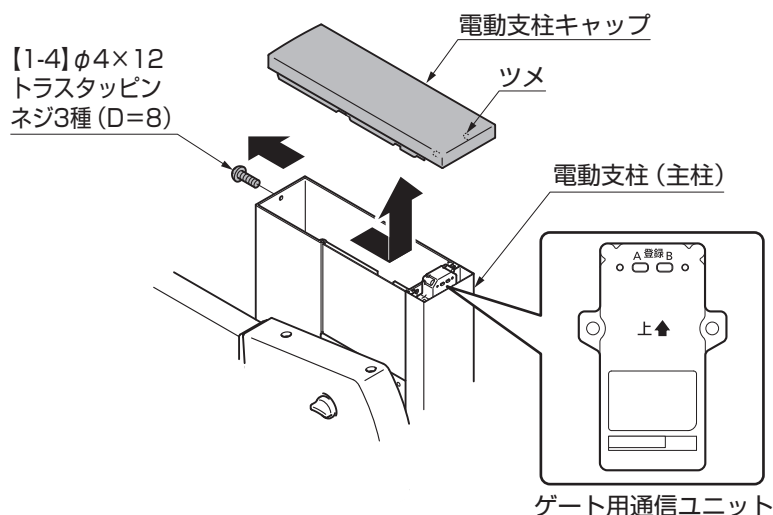


図5-1

①【1-4】を取外し、電動支柱キャップを電動支柱(主柱)からスライドさせて取外してください。(図5-1参照)

⚠ 注意

●登録の際、アルミ材材の切断面に注意してください。ケガをするおそれがあります。

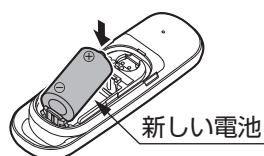
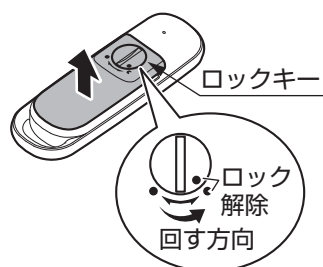
✎ 補足

●取外した【1-4】は、後工程の登録完了後に取付けますので、無くさないように保管してください。

(2) リモコン送信機・電池の挿入/交換方法について

✎ 補足

- 初めて使用する場合は付属している電池を挿入してください。
- 電池を交換するときは古い電池を取り出してください。



①薄くて平らなものを電池カバーのロックキーに挿入し、「ロック解除」の位置に回してください。



②電池カバーをしっかりと押さえながら、ロックキーを「ロック」位置に回してください。

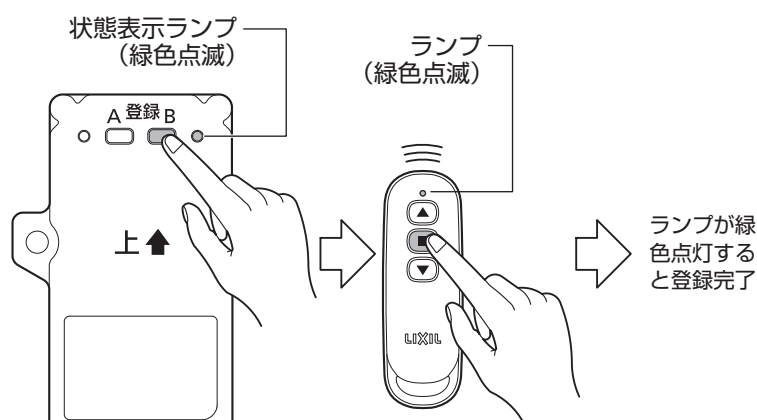
✎ 補足

※挿入／交換後、正常に機能させるために、次のことを必ずお守りください。

- 電池の極性「+」・「-」を確認の上、正しくセットしてください。また、水分やほこりなどが入らないようにしてください。
- ぬれたり、汚れた手で電池をさわらないでください。電池の接触不良となります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしないでください。
- 電極を曲げないでください。

13. (つづき)

(3) 登録 ※追加登録する場合も同様の方法になります。

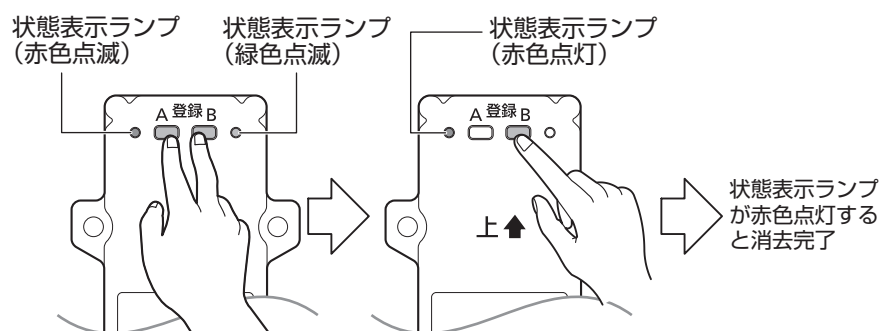


- ①ゲート用通信ユニットの状態表示ランプが緑色点滅するまで、「登録B」ボタンを約3秒間押します。
- ②リモコン送信器のランプが緑色点滅するまで、「■」ボタンを約5秒間押します。ランプが緑色点灯しリモコン送信器の登録が完了します。

補足

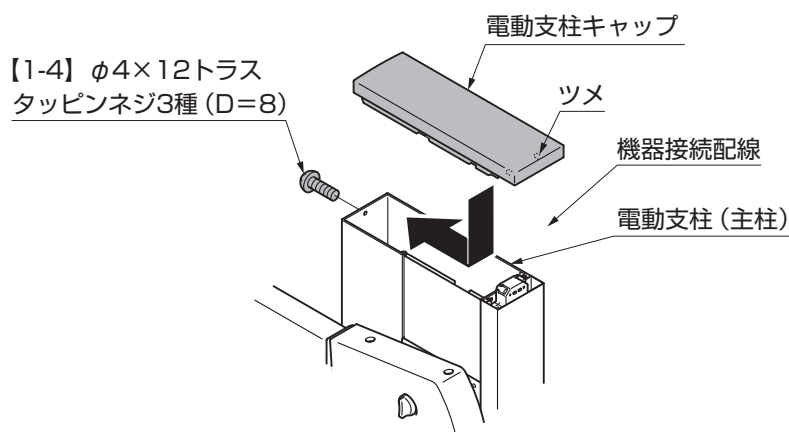
- 2台以上登録する場合は、①と②の作業を繰り返してください。
- リモコン送信器は、車載リモコンと合わせて16台まで登録可能です。17台目は登録できません。使わなくなったリモコンを入れ替える場合は、ゲート用通信ユニットを初期化し、再度登録してください。

(4) 登録取消し ※登録されているすべてのリモコンを消去します。



- ①状態表示ランプが緑・赤色点滅するまで、「登録A」「登録B」ボタンを同時に約10秒間押します。
- ②「登録B」ボタンを押します。状態表示ランプが約2秒間赤色点灯し、リモコン送信器の登録が消去されます。

(5) 登録・登録取消し終了の後に



- ①電動支柱キャップをスライドさせ、電動支柱 (支柱) に【1-4】で取付けてください。

注意

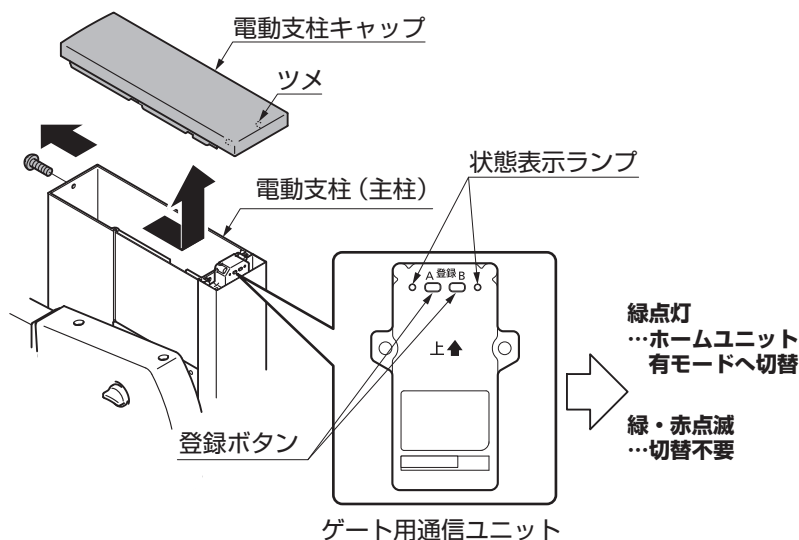
- 電動支柱キャップの取付けの際に、機器接続配線をはさまないように注意してください。また電動支柱 (支柱) 内に納める際に、駆動部品に絡まないように注意してください。断線やショートにより作動不良や途中停止の原因になり、耐久性、安全性に影響します。

14.ホームユニットへの登録（オプション）

※スマートフォンで操作する場合、ゲート用通信ユニットをホームユニットに登録してください。

14-1 登録の前に

以下の方法でゲート用通信ユニットを「ホームユニット有」モードへ切り替えてください。



- ①電動支柱キャップを電動支柱（主柱）から取外してください。

ポイント

- 登録が終了した後は、逆の手順で電動支柱キャップを取付けてください。

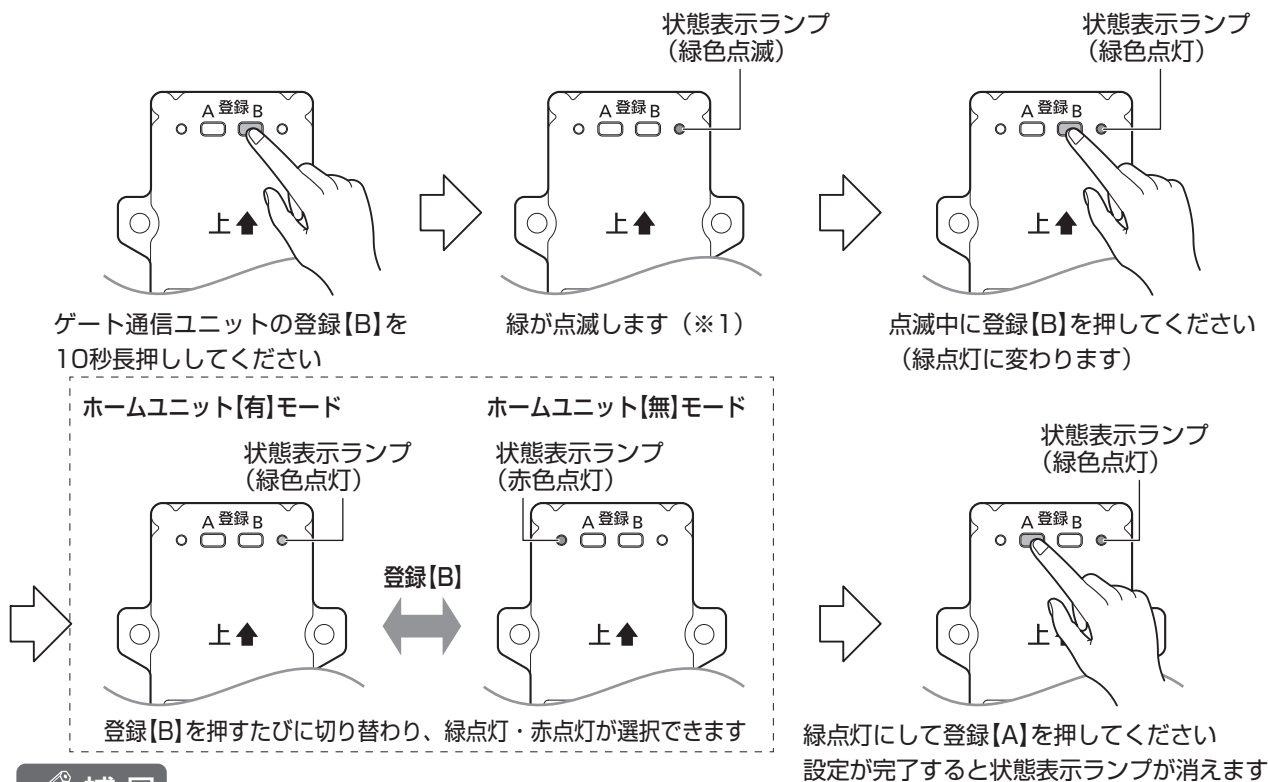
注意

- 登録の際、アルミ型材の切断面に注意してください。ケガをするおそれがあります。

- ②登録AまたはBボタンを押してください。
③緑点灯した場合は「ホームユニット有」へ切り替えて下さい。
緑・赤点滅時は切替不要です。

14-2 ホームユニット有モードへの切り替え

※ 14-1 で緑・赤点滅だった場合は作業不要です。

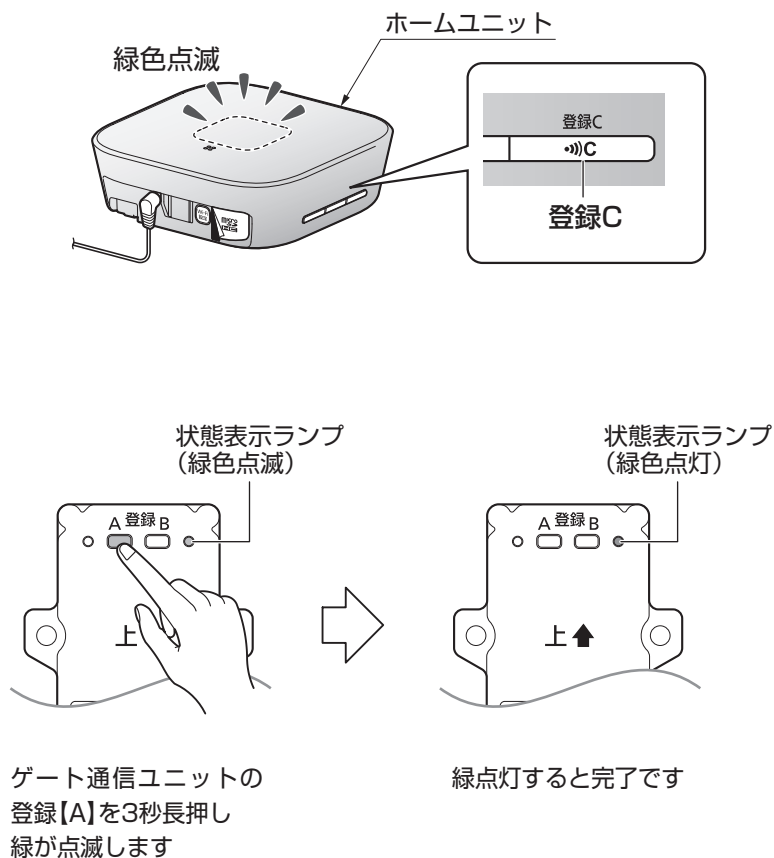


補足

- 約3秒後に点滅が始まっても指を離さず、押し続けてください。ゆっくりとした点滅に変わってから、次の操作へ進んでください。（※1）

14. (つづき)

14-3 ホームユニットへの登録



- ①ホームユニットの【登録C】ボタンを約3秒長押しして下さい。(ランプが緑色点滅するまで)

補足

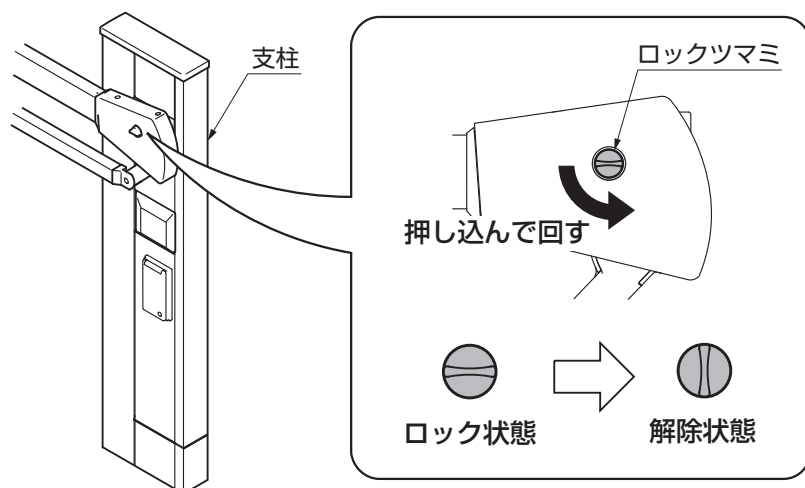
- 実施後、3分以内にゲート用通信ユニットの登録操作を実施してください。
- ホームユニットとゲート用通信ユニットの間が見通し70m以内で登録してください。
- ※金属製のドアやシャッター、コンクリート壁やガラスを何枚も隔てる等、障害物があると通信距離が短くなります。見通せる場所へホームユニットを設置してください。

- ②ゲート用通信ユニットの【登録A】ボタンを約3秒長押しして下さい。(状態表示ランプが緑色点滅するまで)

補足

- 登録が完了するとホームユニットが「ピーッ」と鳴ります。
- ホームユニットと無線LAN、スマートフォンが接続されていない場合でも、登録操作は可能です。

15. ロック解除 ※開閉操作を行なう前に必ず行なってください。



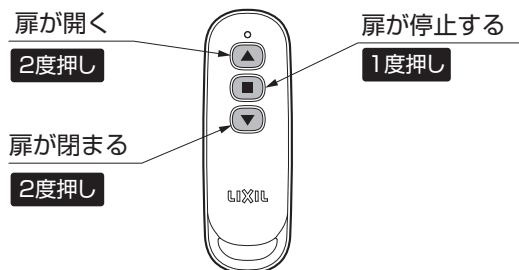
- ①ロックツマミを押し込んで、ロックツマミが垂直な状態になるまで回して下さい。

ポイント

- 扉を開閉する時は、必ずロックを解除してください。
ロック状態のまま扉を開閉すると、駆動部が破損するおそれがあります。

16. 操作方法

16-1 リモコン送信器による操作方法



補足

- リモコン送信器の到達可能距離（目安）は見通し約30メートル以内です。
- 「▲」または「▼」ボタンの2度押し間隔が2秒を超えると送信されません。
- 「▲」・「▼」作動中に逆方向の操作をするときは、必ず一度「■」ボタンを押してください。

補足

- 作動途中で一時停止させるときは「■」ボタンを押してください。
- 一時停止位置によっては作動バランスの関係上、多少動くことがあります。
- 安全上「■」ボタンに限り1回押しだけで送信します。

16-2 車載リモコン、スマートフォンによる操作方法

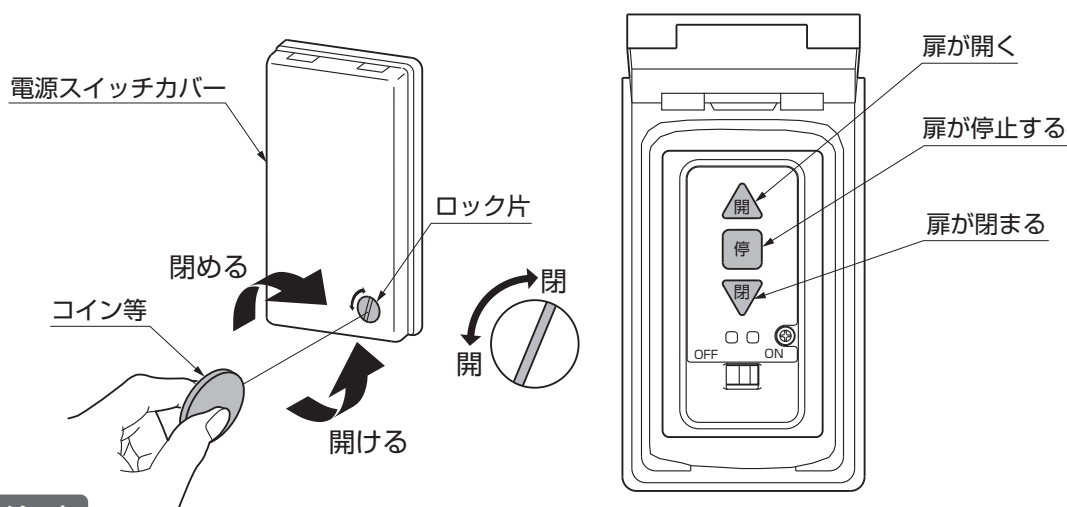
補足

- 車載リモコン、スマートフォンによる操作方は、ホームネットワークシステム「ゲート用通信ユニット」及び「車載リモコン」設定ガイドを参照してください。

16-3 押ボタンスイッチによる操作方法

補足

- 押ボタンスイッチは、施工時・非常時やリモコン送信器の電池切れ時などに使用してください。通常はリモコン送信器での操作を推奨します。



注意

- 不用意な操作による事故を防ぐために、操作時以外はロック片を「閉」の状態にしてください。

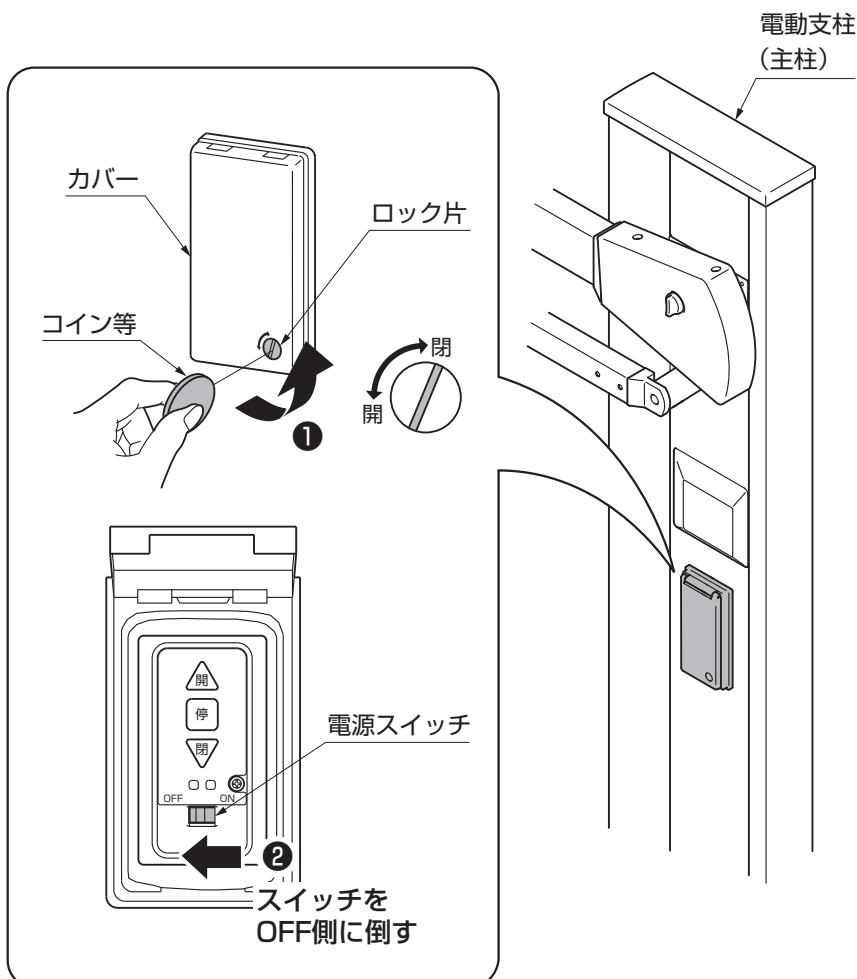
補足

- 作動途中で停止させるときは、「停」ボタンを押してください。
- 「開」・「閉」作動中に、それぞれの逆方向に操作する場合は、必ず一度「停」ボタンを押してください。

16-4 電動で動かせないときの操作方法

※非常時（停電・故障）など電動で動かせないときは、電源スイッチを「OFF」にすることにより手動で動かすことができます。

(1) 電源の切り方

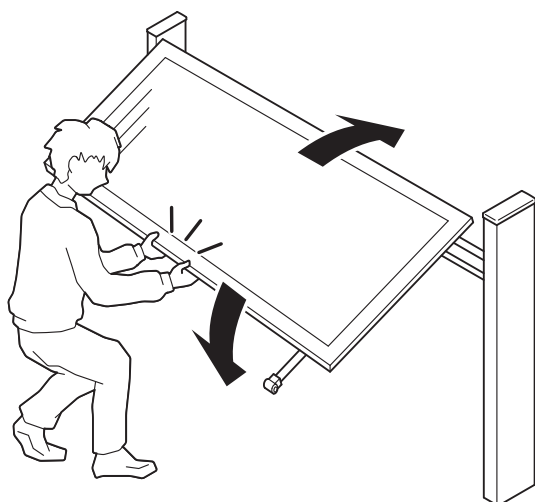


① 押ボタンスイッチのカバーを開け、電源スイッチをOFFにしてください。

ポイント

- コントロールボックスの電源が「ON」のときは、モータによるロック（25～30kg）がかかっています。手動で扉を開閉する場合は、必ず電源を「OFF」にしてください。「ON」のまま開閉すると、駆動部の破損の原因になります。

(2) 扉の開け方、閉め方



② 扉の中心部を手で持ちゆっくりと開閉します。

補足

- オーバードアS、ワイドオーバードアS 1モーターの手動開閉には、約7kgの力が必要です。オーバードアS 2モーターの手動開閉には、約15kgの力が必要です。

17. 安全装置について

ポイント

- 扉が作動中に人や車、障害物に衝突したときに、大事故を防ぐために安全装置を設定しています。
開閉作動中に安全装置が作動した場合、閉側は、約1秒間後退し停止します。開側は、その場で停止します。
安全装置が働く力は、7～8kgです。なお、ワイドオーバードアS 2モータの場合13～14kgです。

18. 作動確認

18-1 手動による作動確認

確 認	処 置
開閉が著しく重くありませんか	・コントロールボックスの電源が「OFF」になっているか確認してください。 (16-4 電動で動かせないときの操作方法) ・ロックツマミが解除されているか確認してください。(14. ロック解除)

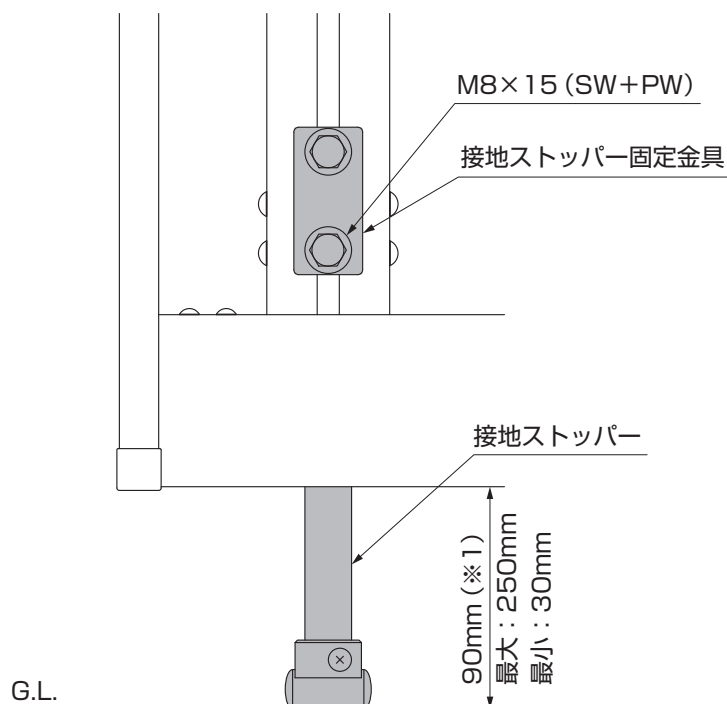
18-2 電動による作動確認

確 認	異 常	処 置
リモコンの「▲」「▼」「■」や押ボタンスイッチの「開」「閉」「停」はそれぞれ正常に作動しますか ※30m以内で1台のリモコン送信器から発信してください。	リモコンで作動しない	・リモコン送信器の操作方法を確認してください。 (16-1 リモコン送信器による操作方法) ・リモコン送信器登録の確認をしてください。 (13-2 リモコン送信器の登録・登録取消し) ・ゲート用通信ユニットの接続の確認をしてください。(11.配線の接続)
	押ボタンスイッチで作動しない	・押ボタンスイッチの操作方法の確認をしてください。(16-3 押ボタンスイッチによる操作方法)
車載リモコンやスマートフォンの「開」「閉」「停」はそれぞれ正常に作動しますか	車載リモコン、スマートフォンで作動しない	・ホームネットワークシステム「ゲート用通信ユニット」及び「車載リモコン」設定ガイドを参照してください。
全閉・開するとき、安全装置が働いていないですか	全閉・開するとき、作動が途中で停止する	・補助スプリング取付金具の取付け位置を確認してください。(5-1 アームの組立て) ・扉取付け位置の確認をしてください。 (8. 扉本体の取付けと調整) ・扉の開閉領域に障害物がないか確認してください。 ・全閉前に接地ストッパーが接地していないか確認してください。 (8-2 扉本体の垂直調整と接地ストッパーの仮止め)
作動速度	スロー作動になる	扉を一度、全閉状態にしてください。

補 足

- 本製品は、インバータモータにより通常はスロースタート・スローストップします。ただし扉が全閉以外の場所で電源をOFFにし、その後電源をONにすると扉の作動は、スロー作動のままになります。スロー作動になった場合、必ず一度全閉状態にしてください。一度全閉状態にすると通常の作動にもどります。

19. 接地ストッパーの最終位置決め ※1 G.L.が水平の場合、約90mmになります。



- ①扉を電動で数回開閉してください。
- ②全閉の状態で接地ストッパーを伸ばしG.L.に軽く当たるように調節してください。

補足

- 全閉位置は、あらかじめ電装部内で決まっています。
- 水勾配などでG.L.が柱より下がっている場合、接地ストッパーをG.L.に合わせて引き出してください。

注意

- 全閉位置に到達前に接地ストッパーがG.L.に当たると、安全装置が働き少し開いて停止します。当たらないように調節してください。接地ストッパーを伸ばしすぎたり、引き込みすぎると駆動部が破壊されたり、耐久性が低下するおそれがあります。

20. 仕様

項 目		仕 様
入力電圧		AC100V (50/60Hz)
消費電力(作動時)		8.4W 0.08A (1モータ)、16.8W 0.17A (2モータ)
モータ定格出力		10W
周囲温度		-10℃~50℃
開閉時間		約16秒
操作方法	電動タイプ	リモコン送信器(押ボタンスイッチ(※))
	ホームネットワークシステム連動	リモコン送信器、車載リモコン、スマートフォン(押ボタンスイッチ(※))
リモコン到達距離(見通し距離)		リモコン送信器: 約30m 車載リモコン: 約30m

※施工時や非常時、リモコン電池切れの際に、コントロールボックスの押ボタンスイッチで操作が可能です。

ポイント

- リモコン到達距離は、周囲の環境や電波障害などにより、短くなることがあります。

取説コード

D515

JZZ621761N
201101A_1039
202005L_1049